

物質的基礎としたる超越的形而上學に依らずして、全然數學に依つて一つの占星術を造つたので有る。併し如何に攻撃しても、學者間に占星術を信する人が多く有つた。若し Cardan や Kepler の如き學者が、占星術を熱心に信じて居たならば、例へ其の術が不完全で誤解されて居ても、其の後の信者は少しも恥づるに足らない。Isis Unveiled (第一卷二五九頁)に言て有る如く、正確の天文學に對する占星術は、恰も心理學が正確の生理學に對する如くで有る。占星術及び心理學に於ては、物質の現實的世界を脱して、超越的精神界に這入らなければならぬので有る。

(三〇) ATHENAGORAS はアゼンヌのプレート派の哲學者で、一七七年に耶蘇教に對する非難、即ち耶蘇教徒は親族相姦し子供を殺して食つたと云ふ事は、虚言で有ると云ふ事を證明せんが爲めに、Marcus Aurelius と云ふ人に宛て、「耶蘇教徒の辯解」と云ふ本を著した人で有る。
(三一) ATMAN 或は Atma (梵語) 至高魂は宇宙靈、神聖の Monad 又公然教で云ふ人間の第七本因で有つて、最高の靈魂で有る。

(三二) AURA (希臘語及羅旬語) は人間、動物及び其の他の體より發し、目に見へない精或は氣で有つて、精神と肉體の兩性を有つて居る心靈の氣で有る。即ち電氣生及び電氣心の靈氣 (Aura)

で有る。又靈智學では、Akasha 或は磁氣の靈氣 (Aura) と云ふ。又羅馬教の殉教傳では聖人 (a Saint) と云ふ。

(三三) AVATĀRA (梵語) は神聖なるものゝ生れ變り、即ち神であつて、普通の人間の體に生れ變る必要の無い程に靈化したる、高尚の人間の降生で有る。Krishna は Vishnu の Avatāra で有つた。達賴喇嘛 (Dalai-Lama) は Avalokitesvara の生れ變りと思はれ、Teshu-Lama は Tsou-ka-pa 或は Amitābha の生れ變りと思はれて居る。Avatāras には二つの種類が有る、即ち一つは女から生れ一つは親無し、即ち Anupādaka で有る。

B の 部

(三四) BE-NESS は譯する事の出來ない Sat と云ふ語の實際の意味を明瞭にする爲めに靈智學者が造つた語で有る。Sat と云ふ語は Being と云ふ意味では無い。如何となれば Being と云ふ語は、生存の感情的意識を設想する。併し此の語は絶対的本因、即ち彼の哲學的「宇宙即神論」では、宇宙の根元及び宇宙其のもので有ると、假定する所の宇宙的不知の本因にのみ適用するが故に此の語は只「Being」と云ふ語を以て譯する事は出來ない。實際 Sat と云ふ語は、或

る東洋學者が譯して居る如き「解す可からざる實體(Entity)」では無い。如何となれば、Satは實體でも無く、又無實體(Non-entity)でも無く、此の二つを兼ねて居る。Satは前に述べた通り、絶對の BEINGESS である。Being には無い。Sat には比へるものも無く、分れもせず、分たれもしない「全」(ALL)である。即ち目に見え又見えざる、云ひ替ふれば客觀的及び主觀的の、自然の根元で有つて、一部分を解する事は出来ても、全體を解する事は出来なものである。

(三三) BHAGAVAD-GITĀ(梵語)の文字通りの意味は「神の歌」(The "Lord's Song") 卽 Mahābhārata と云ふ印度の大叙事詩の一部分である。此の詩には「御者」の Krishna と其の弟子なる Arjuna とが、最高の精神的哲學に就て論じた問題が書いて有る。其の詩は全く秘密奧義的である。

(三四) BLACK MAGIC = 惡魔術は死人を呼び起し、又變異の力を濫用する事を言ふ。此を濫用するのは故意で無くとも、只自分の慾の爲めに行へば矢張り「惡」魔術である。

(三五) BOHME JAKOB は神秘的の大哲學者で、中世に於ける最も有名の靈智學者の一人である。彼は Görlitz(Silesia)と云ふ所から二哩計り隔つた Old Diedenberg と云ふ所で一五七五年頃に生れ、一六二四年に殆んど五十歳に成つて死んだ。子供の時には、彼は只の牧羊者で有つて、

村の學校で讀み書きを習ひ Görlitz の貧しい靴屋の弟子に成つた。彼は先天的に大天眼通で有つて、教育も無く又科學の研究もしないで、現今に於ても科學的眞理のある書物を著した。彼は自著を評して「無邊の大海に在るが如くに、此の眞理を見たのである」と言つて居る。又「宇宙を Chaos に於ける如くに通觀して居つた。」其の Chaos は「遊星の初期に於ける如く」、時彼に現はれたと言つて居る。彼は生れながら非常に神秘的で有つて、稀な性質を有して居た。即ち銳利の性質の外皮が、心知的自我と精神的自我と直接の交通を妨げない様な性質を有つて居た。Jakob Bohme が他の多くの修養の無い神秘術者と同じく神と間違つたのは此の精神的自我である。

「人間が有て居る智識は、自分のものでなくて、神から受たもので有り、神は賢い智恵を自分の好む丈け人間の靈魂に表すもので有る」と彼は言つて居る。若し此の大靈智學者が三百年後く生れたならば此の様な説明はしなかつて有らう、即ち自分の修養の無い腦髓を用ひた彼の所謂「神」は、自分の神聖の眞我、即ち心内に在る全知の神で有り、又其の神が與へたものは、神が分量を限つたものでなくて、其眞我が體內に一時宿つて居つた人間の能力に應じて與へたので有る、と云ふ事を悟つたであらう。

(三八) BOOK OF THE KEYS は隠秘釋義法 (Kabala)の本で、原本は今無い、併し偽造或は變造の本は有るかも知れない。

(三九) BRAHMA(梵語)。中性の Brahma と印度の衆神の Brahma、即ち男性の創造者とを區別しなければならぬ。前者の Brahma 或は Brahman は非人格的で最高の認識し能はざる宇宙の靈で有つて、其の精から總てのものが發現し、又之に歸するもので有る。又無體、無形、生れもせず、無窮で有り、始も無く終りも無いもので有る。之は宇宙に遍在して居つて、最少の金屬分子から最高の神に至る迄にも、生氣を與へて居るもので有る。然るに Brahma は男性で、創造者と言はれ、只定期的に發現する丈で、Pralya(休息)に成る、即ち又同じく定期的に消へ失せて無くなるもので有る。

(四〇) BRAHMĀ'S DAY = ブラマの晝は四十三億二千萬年で有つて、其の間に Brahmā は、其の「金卵」(Hiranya-garbha)から出て、物質界を創造する。如何となれば自然に於ける授胎創造力は此の Brahmā で有る。此の期間を過ぐれば、あらゆる世界は、火や水に依つて破壊せられ、Brahmā は物質的自然と共に消えて仕舞ふ。夫れから——

(四一) BRAHMĀ'S NIGHT = ブラマの夜が来る。其の夜は其の晝と期間が同じで、其の期間中 Brahmā は睡つて居ると云ふ。併し目が覺めると同時に、又其の順序を繰り返し、Brahmā の一代の間續く、其の一代は、各三萬一千百億四千萬年の百倍の間「晝」と「夜」とが代る／＼續くので有る。其の一代が満ちると「大休息」(Mahapralaya)が始まつて、又夫れと同じ長さの期間續く。

(四二) BRAHMA VIDYĀ(梵語)は11の Brahmas(即ち Brahma 及 Brahmā)の眞の性質に就ての智識、或は奥義的學問を言ふ。

(四三) BUDDHA(梵語) = "The Enlightened" は Kapilavastu の皇子で、近世佛教の元祖なる Gautama Buddha の稱號として一般に知られ、最高の智識及び神聖と云ふ意味で有る。佛(Buddha)に成るには、感覺と人我との範圍を脱し、眞我の完全なる知覺を得て、之を總て他の自我と分離しない様にし、又經驗に依つて總ての現象殊に實現的宇宙は、全く空幻で有ると云ふ事を悟り、又總て無常有限のものから全然離れて此の世に居る間に無窮不滅の世にのみ生きなければならぬ。

(四四) BUDDHI(梵語)とは宇宙的靈魂或は心(Mind)を言ふ。Mahabuddhi は Mahat の一名で又人間の精神的靈魂(公然教で言ふ第六本因)、即ち Atma (公然教の第七本因)の導子で有る。

(四五) BUDDHISM 佛教は Gautama Buddha が教へた宗教的哲學で有つて、今では二つの宗派、即ち南派及北派に分れて居る。南派は釋迦の元來の教を堅く守つて居る故に、北派よりも一層純粹で有ると言はれて居る。北派佛教は Tibet、支那及 Nepal に限られて居れど此の區別は間違つて居る。若し南派が元來の教に近く、公然の教から離れて居ないとすれば(併し釋迦の死後に度々公會を開いたが爲めに其の教義が少し違つて居るのみで有る)北派は Siddhartha Buddha が自分の奥弟子なる、Bhikshus 及 Arhats へのみ教へた奥義教から起つたもので有る。實際佛教は近世に於て何れの公然教に依つても、公平に判断する事は出来ない。眞の佛教は、南派の哲學と北派の形而上學とを合せて研究しなければ、實際に理解する事は出来ない。若し南派が餘り偶像破壊主義で、嚴酷で有り、又北派が(印度の公然教の害を受け、即ち其の衆神の多くは新しい名の下に Tibet の國へ移された)餘り形而上學的で超越的過ぎるならば、之は兩派で佛教を餘り通俗に教へたからで有る。此の兩派の關係は恰も耶蘇教の新教と舊教との如くで有る。兩派とも餘り信仰に凝り過ぎ、又間違つた釋解をして居る。併し南派の僧侶も北派の僧侶も知りつゝ、眞理に背いた事は無い。況して、彼等は僧侶政略、即ち野心に支配せられ或は他の教會の如く、個人の利益や權力に目を付けて運動した事は無いので有る。

(四六) BUDDHI-TAIJASA (梵語)は非常に神秘的の言葉で、種々の解釋が出来る。併し秘密教に於て、又公然的人間本因に關しては、此の語は人間の二重の Manas が人の生涯中に再び結合して、Buddhi 即ち精神的靈魂の光輝に浴して居る時の状態を表す語で有る。如何となれば Taijasa は「光輝」(The Radiant)と云ふ意味で、Manas は Buddhi との結合の爲めに光輝に成り、言はゞ其の光輝の中に這入つて、Buddhi と同一に成るので有る。而して三本因は一つと成り、Buddhi が最高で有るが故に、Buddhi-Taijasa に成るので有る。一言に言へば Buddhi-Taijasa は神聖の靈魂の光輝を受けたる人間の靈魂即ち精神(Spirit)或は靈性の自知覺(Divine SELF-CONSCIOUSNESS)の光に照されたる人間の理性で有る。

C の 部

(四七) CASTLE 階級の元の意味は、印度人が分れた四つの遺傳的階級で有る。即ち【第一】Brahman 即ち Brahma の子孫。【第二】Kshatriya、即ち武士。【第三】Vaisya 即ち商人。【第四】Shudra 即ち下等の職人や農民で有る。此の四つの階級から幾百の枝葉が出来たので有る。

(四八) CAUSAL BODY 本原體は實際客觀的にも又主觀的にも體で無く、Buddhi 即ち精神

的靈魂(Spiritual Soul)に有つて、何體とも言はれぬ此の體は、Turya の状態、即ちSamadhi の最高の状態に至る Sushupti の状態の直接の原因に成るが故に「本原體」と云ふので有る。Tataka Raja Yoga 派では、Kamnopadhi 即ち「原因の基礎」と言ひ、Vedanta 派は言ふ Vijnanamaya 及 Anandamaya kosha の兩方に一致する(Anandamaya 及 Atma の次あり有つて、宇宙體の種子に有る)のBuddhi 計りを「本原體」と云ふ事は出来なうが、Manns 即ち生れ變りの實體或は自我と結合して「本原體」に成るので有る。

(四九) CHEILA(印度語)は弟子、即ち Guru 或は聖人の弟子即ち或る仙人(Adept)や哲學派の教を授くる者を云ふ。

(五〇) CHERESTOS(希臘語)は Christ の事と言ふ昔の Gnostic 教の語である。此の學語は、耶穌紀元前第五世紀に Hesychius 及 Herodotus 等が用ひた語に有る。Manteumata pythochrestia (即ち Pythia の神が巫厄(pythones)に依つて傳へた託宣)は、前者の書著(Cheeph 901)に出で居る。而つて Pythochrestos 及 Chirno と云ふ語から出來たので有る。Chresterion 及「託宣の試驗」(The test of an oracle)のみならず、其の託宣をするものに供へるもので有る。Chrestes は託宣を解釋する者、即ち豫言者、占者に有つて、Chresteros は神に仕へる者を言ふ。Justin Martyr 云ふ最も古い耶穌教の著者は、彼の初めて著した「辯解」(Apology)と云ふ本に、同宗教者、即ち耶穌教徒を Christians と言つて居る。耶穌教徒が自分を Christians と言はなうと、Christians と云ふのは、無智の爲めである。Lactantius は言つて居る(第四卷第七章) Christ 及 Christians と云ふ語は、元は Chrest 及 Christians と綴つて有つて、異教徒の語から借りた言葉に有る。Chrestos と云ふ語は、異教徒の語では「試練の弟子」即ち「教僧の候補者」と云ふ意味に有つた。其の候補者は、長い間苦をして奥義を究め、其の位置を得、傅油の式を受けたならば(即ち得道者(Initiate)や神の像であるも最後の儀式に油で塗られた)、Christos に成つたのである。即ち、奥義、或は秘密教の言葉で言へば「淨められる」ので有る。實際に、秘密記號學では、Christos 或は Christos は「道は既に踏み、目的に達した」と云ふ意味に有つた。目的に達した時には、此の困苦の働、即ち消滅する物質の「人我」と破壊し能はざる「真我」とを結合した結果が、夫れに依つて「人我」を不滅の自我にしたので有る。「其の道の終點には Christos、即ち「精練者」が居る。而して其の結合を一旦仕遂げれば、Chrestos 即ち「苦の人間」Christos に成つたので有る。得道者なる Paul は、此の事を知つて居つた。而して拙な翻譯で「Christ が汝等に生るゝまで余は苦しむ」(“I travail in birth again until Christ be formed in you,” Gal.

IV. 19) と言つて居るのは、丁度此の事を言つたので有る。此の實際の意味を譯すれば「汝が汝の心内に Christos を造る迄」と云ふ意味に成るので有る。併し Christos は僧侶や豫言者と關係して居ると云ふ事のみを知つて居て、Christos の隠れたる意味を、少しも知らなかつた俗人は、Laotantius や Justin Martyr の如く、自分を Christian と言はないで、Christians と云ふ事を主張したので有る。夫れ故に誰でも善人は猶太人、回々教徒、印度教徒或は、耶蘇教徒でも Paul が言つて居る如く (Eph. iii. 16, 17) 自分の心内に Christ を見る事が出来るので有る。

(五二) CHRISTI "Chrestos" を見よ。

(五二) CHRISTIAN SCIENTIST は意思の力に依つて療術を行ふ人を表す爲に、新たに造つた語で有るが、此は誤まつて居る。如何となれば佛教徒、猶太人、印度人、或は物質論者でも、自分の意思を堅固に支配する事が出来るへすれば、此の新しい西洋の "Yoga" を同じく行ふ事が出来るので有る。"Mental Scientists" は之と競争して居つて、同様の派で有る。此等の派の人々は、病氣や苦痛は如何なるものも決して無いと云ふ事を主張し、推測式的に宇宙靈は、肉體の病を受ける事は出来ず、あらゆる分子は、靈で有り、又施術者も被術者も、皆此の靈、或は

「神」の中に居るが故に、世の中に病氣の如きものは無い、又有る筈は無いと言つて居る。此の様な事を唱へても、矢張り Christian Scientist も Mental Scientist も病氣に罹り、又慢性病で床に就いて居るのは、普通の人間と少しも異つた所は無いので有る。

(五三) CLAIRDIENCE は天賦或は秘密教の訓練に依つて得た力で有つて、距離の如何に拘はらず物を聞く力を云ふ。

(五四) CLAIRVOYANCE 透視又天眼通は内部の目、即ち精神的視官を以つて、物を見る力を云ふ。現今用ひられて居る此の語の意味は、曖昧で、天賦の機敏の力及直覺に依つて、能くものを言ひ當てる事、及び彼の Jakob Böhme 及 Swedenborg が用ひた不思議の力は此の意味に含んで居る。併し此の二人の天眼通でさへも、猶太の聖書の一般の教及び宗派的の教に超越する事が出来なかつた故に、自分の見た事を全然間違へ、眞の天眼通には遠く及ばなかつたので有る。

(五五) CLEMENS ALEXANDRINUS は昔の耶蘇教僧侶で、著述を多くした人で有る。彼は新ブナー派で Ammonius Saccas の弟子で有つた。彼は耶蘇紀元第二と第三世紀との間に、Alexandria に居た少数の耶蘇教哲學者の一人で有る。

(五六) COLLEGE OF RABBIIS とは猶太教の大學校を云ふ。此の大學校は耶蘇紀元初世紀中に非

常に有名で、Babylon に在つた。併し其の名聲は、Philo Judæus、Josephus、Aristobulus 等の希臘派の哲學者が Alexandria に現れたが爲めに、大いに衰へたのである。其の大學派は Alexandria 派の哲學者は魔術使 (Theurgists) や下等な豫言者であると言ひ觸らして、其の敵を攻撃した。併し Alexandria 派の妖術を信じた者は、正教の猶太人が、其の様な Huzim 派の先に立つて居る時には、詐欺者、悪人とは思はれなかつた。之等の大學校は、豫言及秘密教の科學を教へる所て有つた。Samuel は Ramah の其の様な大學校の頭て有つて、Elisha は Jericho の長て有つた。Hiel と云ふ人は豫言者や天通眼を養成する大學校を開いて居た。Euthydes 派や正教の大學者の元祖は、Babylon 大學校の一生徒なる此の Hiel て有つた。

(五七) CYCLE = 循環期は希臘語で Kyklos と云ふ語から出來たのである。昔の人は時を無數の輪に輪が重なる循環期に分つた。而して其の様な期間は、皆長短が有つて、各宇宙的、地球的、物質的或は精神的の或る出來事の始、或は終りを記したるので有る。期間の中には、只だ數年のものも有り、又非常に長いものも有つた。人類變化に關する大 Orphic の循環期は、十二萬年の間續き、Cassandrus の循環期は、十三萬六千年の間續く。後者は遊星の影響及び人間と神との其の關係に、大なる變化を起した。此の事は近世占星術者が、全く知らないで居る。

D の部

(五八) DEIST は一神或は多神の存在を信じて居ても、之を理解せず、又天啓を否認する人を云ふ。即ち昔の不可思議論者を云ふ。

(五九) DEVA (梵語) は「神」即ち「輝く神」(deva = deus) と云ふ意味で有つて、「輝く」と云ふ意味の div といふ語から出來たのである。Deva は善でも悪でも「天國の者」(Celestial being) て有つて、天上の三世界、即ち三状態に居るもので有る。Deva には三十三群、即ち三億三千萬有る。

(六〇) DEVACHAN は「神の居る所」と云ふ意味で、此の世の二つの生の中間に有る状態て有る。其の状態は自我 (Atma-Buddhi-Manas、即ち一つに成つた三本因) が Kama Rupa から分離し、又肉體が此の世で死すると同時に、下位の本因が分散して後に這入るので有る。

(六一) DHANMAPADA (ハリ語) は佛教の書物から採つた種々の格言が書いて有る本である。
 (六二) DHYÂN CHOHANS の文字通りの意味は「深思の神」即ち「禪の神」て有る。即ち舊教の大天使と同様の最高なる神で、宇宙を支配する力を有つて居る神聖の智力て有る。

(六三) DHYÂNĀ (梵語) は六つの Pāramitās 即ち完全の状態の一つ、即ち之を行ふ禁慾の人を五官

知覺の狀態より遙かに超越せしめ又物質界以外に脱せしむる抽象の狀態で有る。文字通りの意味は「深思」即ち「禪」で有る。禪 (Dhyana) の六の狀態は、人我」が五官の生から分離する度合に依つて、遠よのみで有る。

(六四) DOUBLE は「靈氣體」或は獨逸語の Doppelgänger と同一の意味で有る。

E の 部

(六五) ECSTASIS (希臘語) は心靈精神的 (a psycho-spiritual) 狀態、又は透視力を起す肉體的失魂の狀態及幻象を見る天福の狀態で有る。

(六六) EGO (羅甸語) は「自我」、「我は我なり」と云ふ人間の知覺、或は「我たる事」の感覺で有る。奧義哲學では、人間に二つの「自我」即ち「死すべき自我」即ち「人格的自我」及び高尚、神聖なる「非人格的自我」が有ると云ふ事を教へて居る。而して前者を「人我」と言ひ、後者を「真我」と言つて居る。

(六七) EGOTY は「真我」の意味で有つて、「人我」の意味では無い。如何となれば、Egoty は Egoism 即ち人我の特質なる「利己」の反對で有る。

(六八) EIDOLON (希臘語) は人間の幻像、即ち靈氣體と云ふものに等しい。

(六九) ELEMENTALS は分子の「靈鬼」(spirits) 即ち四つの分子界、即ち地、空氣、火、水の中に在るものを謂ふ。隱秘釋義法 (Kabala) では、之等を地の「地靈鬼」(gnomes)、空氣の「妖仙」(sylphs) 火の「火蛇」(salamanders) 及び水の「水靈鬼」(undines) と言つて居る。其の高上のもものと、夫れを支配するものの小數を除けば、彼等は「精氣の人間」と云ふよりも、寧ろ「自然の力」で有る。之等の力は秘密學者 (Occultist) の奴隸と成つて、種々の現象を現す事が出来る、併し媒介者を使ふ「魂」(Elementaries) 即ち Kama Rûpas に使はるれば、彼等は人を迷はすので有る。此の世の第五、六、七の狀態に生れる下等の見えないものは、分子、即ち peris, devs, jinns, sylvans, satyrs, fauns, elves, dwarfs, trolls, noris, kobolds, brownies, nixies, goblins, pinkies, banshees, moss-people, white ladies, spooks, fairies 等々云々。

(七〇) ELEUSINIA (希臘語)。エレミニアの神秘行 (The Eleusinian Mysteries) は希臘の神秘行中で (Samothrace のものを除けば) 最も有名で、古く Athens の近くの Eleusis の村で行はれたのである。Epiphanus 云々人々此の神秘行の始は、Tachos の時代 (耶穌紀元前一八〇〇年) から起つたと云つて居る。此の神秘行は大 Ceres なる Demeter 又は埃及の Isis を祭つたもので有る。而して

其の神秘劇の最後の場は、身代り及復活の事を演じた。其の時に得道者は Epope の最高のめられたので有る。神秘の祭は Doedromion (七月) 即ち葡萄收穫の季節に始り、其の月の十五日から二十二日迄、即ち七日間続いたので有る。猶太の「大祭」即ち「收穫の祭」も Ehanim (七月) の月に始り、十五日から二十日迄続いたので有る。或る人の説に依ると、Ehanim と云ふ月の名は Adonim, Adonia, Attenim, Ehanim から出来て、Adoni 或は Adonis (Phan) を祭つたもので有る。其の神の死は Bechchem の森で、猶太人に歎かれたので有る。「聖晚餐」(“Bread and wine”) の式は Eleusina 及猶太の「大祭」中に行はれたので有る。

(七一) EMANATION = 發現。此の教は形而上學の意味に於ては、進化論に反對して居るけれども、矢張り之と同一で有る。科學の教へる所では、進化は生理學的に言へば、一種の生殖法で有つて、胎兒を發達せしむる原子は、其の親に既に先在して居て、其の發達、形態及其の原子の特徴は、自然の法則に依つて構成せられるので有る。而して科學者の云ふ宇宙學に依れば、其の法は分子の連關及種々の結合に依つて機械的に起るので有ると言つて居る。併し奧義教では、之は只外面の法で有つて、實際の法は不變の法則に基きたる、有智的力に支配されて居る發現で有る。夫れ故に秘密學者や靈智學者は Kapila や Manu が説いて居る進化論の教を、

全く信じて居るけれども、彼等は進化論者と云ふよりも、寧ろ發現論者で有る。發現説は一時一般に信じられて居た、即ち印度哲學者、埃及、カルデア及希臘の教僧のみならず、アレキサンドリア派の哲學者、又は希伯來人が (隱秘釋義法又は創世記で) 唱へて居た。如何となれば、希伯來語の Asht と云ふ語を希臘語の聖書から「天使」と態と間違へて譯したからで有る。然るに Asht と云ふ語は、ノスチック教で言ふ如く「發現」又は Fouis と云ふ意味で有る。實際舊約聖書の申命記 (第三十三章第二節) では Asht 或は Ashit と云ふ語は「火の法則」(Fery Law) と譯して有る。併し其の文を正確に譯せば「彼の右方より」法則に依つて「火が出た」(火の法則に非ず)、即ち一つの燭が他の燭に移つて、丁度火が付き易い物質の様に移つたと云ふ意味に成る。之が即ち Isis Unveiled と云ふ本に書いて有る發現説で有る。現今世間で理解し始めた所では、進化に於ては、總ての物質には、向上せんとする傾向が有ると思つて居る。此の説は Manu や昔の他の印度の哲學者が、明かに唱へて居る。「不思議の樹」は亞鉛溶解の場合で之を例證して居る。此の派の人と發現論者との議論は、簡單に言へば次ぎの様で有る、即ち「進化論者は總ての研究を「知り得べからざるもの」迄行つて止め、發現論者は如何なるものも、入れなければ出る筈がない、即ち其の言葉の意味の如く、生れる事は出来ないと云ひ、

生は萬物以上の靈的能力から出るので有ると云ふ事を示して居る』。

(十四) ESOTERIC は「秘密或は、奥義的」と云ふ意味で有つて、希臘語の esoterikos 即ち「奥義秘密」と云ふ語から取つたので有る。

(十五) ESOTERIC BODHISI 即ち奥義的 Bodhism は「秘密の智慧」或は「知解」と云ふ意味で「奥義」と云ふ意味の希臘語の esoterikos 及「智慧」と云ふ意味の梵語の bodhi から出来たので有る。此の語は「智識」或は「知解力」と云ふ意味の buddhi 及 Buddha 即ち「大智」(the "Enlightened") の哲學、或は法則と云ふ意味の Buddhism と云ふ語と區別する爲めで有る。此の語は又 Soma の子なる Rudra (知解、智慧) から取つて Buddhism と書く。

(十六) EURASIANS 「混血兒」は「歐亞細亞人」(European Asiatics) の約語で有つて、白人の父と印度の黒人及黒人の父と白人の母との子を言ふ。

(十七) EXOTERIC は「顯教」「外面」「公然」と云ふ意味で有つて「奥義」の反對で有る。

(十八) EXTRACOSMIC は「宇宙或は自然以外」と云ふ意味で有つて、自然から分離し、或は獨立して居る人形の神の存在を表はさんが爲めに、拵らへた無意味の語で有る。如何となれば自然或は宇宙は、無限無窮で有るが故に、其の以外には何も有る筈は無い。此の語は宇宙全體は

神の靈が這入つて活動し、自然は見えざる眞の「實在」の外衣で、物質は其の幻影的の蔭に過ぎないと云ふ「萬有神教」の考に反對して造つた語で有る。

F の 部

(十九) FERHO (Syrja 語) は Nazarene Gnostic 教で言ふ最高最大の創造力を言ふ (Codex Nazareus)。

(二十) FIRE-PHILOSOPHERS 「火哲學者」は中世の錬金術者及錬金方士に付けた名で有る神業者 (Theurgists) の後繼者なる錬金方士は、火を神の記號とし、物質的分子の原素のみならず、其の原素を活動せしむる精神的及心靈的の力を含んで居るものと思つて居つた。大きく分解すれば、火は三重本素で有つて、奥義的に言へば、繼て他の分子の様に七重本素で有る。丁度人間が精神、靈魂、肉體及四重の状態から出来て居る如く、火も又其の通りで有る。有名の錬金方士の一人なる Robert Flood (Robertus de Fluctibus) と云ふ人の著書に書いて有る如く、火は「第一」見える焰(體)「第二」見えざる靈氣の火(靈魂)及「第三」精神を含んで居る。其の四つの状態は「第一」熱(生)「第二」光(心)「第三」電氣(Kama 或は分子的力)及び「第四」靈以外の

合成的精、即ち其の靈の存在及發現の根本的原因で有る。鍊金方士は、焔が物質状態に於て消えた時には、見える世界から見えない世界、即ち知り得べき世界から、知り得べからざる世界に移つた計りで有ると言つて居る。

G の 部

(七九) GAUTAMA (梵語)は、印度に於ける人の名で有つて Nepal の境に有る一小國の Shakyu 王なる Suddhodana の子 Kapilavastu の皇子で有る。彼は耶穌紀元前第七世紀に生れ、今では「世界の救主」と言はれて居る。Gautama 或は Gotama は Shakyu 家の「僧名」で有る。彼は普通の人間に生れて、自分の力に依つて佛の状態に達したので有る。即ち人で有り乍ら、何れの「神」よりも優れて居る。

(八〇) GEBIROL は、文學上で Avicbron と云ふ Solomon ben-Yehudah で有る。彼は生れは猶本人で、哲學者、詩人、カバラ教徒で有り、多く書物を著し、又秘密教徒で有つた。彼は Maimonides と云ふ所で、第十一世紀(一〇二一年)に生れ、Saragossa で教育を受け、一〇七〇年に Valenciu

と云ふ所で、回々教徒の手に罹つて斃れた。彼の宗倣は、彼を Salomon the Sephardi 或は西班牙人と云ひ、又亞刺比亞人は彼を Abu Ayyub Sulaiman ben-Ya'iyu Ibn Jebirol と云つて居つた。併し學者間で Avicbron と呼ばれて居つた (Myer の Quabalah と云ふ本を見よ) Ibn Gebirol は實際彼の時代に於ける最も偉い哲學者の一人で有つた。彼は亞刺比亞語で多く書物を著し、其の原稿は大概今も尙保存して有る。彼の傑作は Meqor Hayyim 即ち「生の泉」と云ふ本で有る。此の本は彼の傳記の著者が言つて居る如く、理論的カバラ教の秘密を初めて發いた著書の一つで有る。

(八一) GNOSIS (希臘語)の文字通りの意味は「智識」で有つて、所謂耶穌紀元初世紀中に、宗教哲學家が、其の研究の目的を表さんが爲めに用ひた學語で有る。此の精神的及神聖の智識、即ち印度人の言ふ Gupia-vidya は儀式的神教の様な精神的秘密行の奧義を悟る様にならなければ得る事は出来なかつたので有る。

(八二) GNOSTICS (希臘語)は the Gnosis (即ち智識)を教へた哲學者を言ふ。彼等は耶穌紀元初世紀に世に出で其の中の有名な者は Simon Magus, Valentinus, Basilides, Marcion 等と有つた。

(八三) GOLDEN AGE 〓 「黄金時代」。昔の人は生の循環期を金、銀、青銅、鐵の時代に分つた。黄金時代は太古の純朴、質素及一般の幸福の時代で有つた。

(八四) GREAT AGE 〓 「大世」。昔の人が言つた「大世」は數種有つた。印度では其の大世は mahāmanvantara の全體、即ち「ブラマーの世」(the Age of Brahma) を含んで居た。其の世の一日は「連鎖」の生の循環期を表はして居る、即ち七廻り (rounds) の間續く。夫れ故に其の一日一夜は manvantara 及 pralaya として八、六四〇、〇〇〇、〇〇〇年間續き、一世 (Age) は三二一、〇四〇、〇〇〇、〇〇〇年間續く。其の「世」の後で pralaya 即ち一般の宇宙の「休息」が始まる。埃及人や希臘人は「大世」を太陽年、即ち星年のみに言ひ、其の期間は二五、八六八年で有る。全體の「世」即ち神の世の事は何も言つて居らない。如何となれば、其の「世」は秘密行の場及得道 (Initiation) の儀式の時のみに表す可き事であるからである。カルデア人の「大世」は、印度人の「大世」と年數が同じである。

(八五) GUHYA-VIDYA (梵語) は神秘的念呪 (mantras) の秘密の智識を云ふ。

(八六) GUPTA-VIDYA (梵語) は Guhya-vidya と同じで、奥義的の科學及智識である。

(八七) GYGES 「ガイジエスの環」(The ring of Gyges) は歐羅巴の文學でよく知られて居る。ガイ

ジエスはリディア人で、カンドーリス王を殺して、其の女王を娶つた人である。プレートに依れば、ガイジエスは地中の穴へ這入つて、真鍮の馬を發見し、又其の横腹の中に指に真鍮の指環を符めて居た大きな人間の骸骨を發見した。此の指環を自分の指に嵌めれば彼は消へ失せる事が出来た。

H の部

(八八) HADES (希臘語) Aides は見へない所、即ち「蔭の國」で有つて、其の國の一部は Tartarus 即ち眞暗の所で有る、又 Amenti に於ける「深熟睡眠」の部も同様である。其の國で科する罰を比喩的に表した記事に依ると、其の所は全然カルマ的である。ヘーデイスもアメンチも今でも或る僧侶や牧師が曲解して居る様な地獄で無い。而して其の場所は「樂地」(Elysian Fields) 或は Tartarus の様に表して有つても、川の「彼岸」に渡らなければ、達する事は出来ないので有る。「埃及の信仰」(Bonwick 著) と云ふ本に書いて有る如く、Charon 即ち Styx 川の渡し守の話は、ホーマーの詩のみならず、諸國の詩にも書いて有る。其の川を渡らなければ、「極樂島」に達する事が出来ない。埃及の儀典にはホーマーより幾代も以前に Charon と其の舟の事

が書いて有る。彼は *Ken-on-ra* 即ち「鷹頭の舵手」で有る (*Hell* を見よ)。

四〇六

(八七) *HALLUCINATIONS* (幻想) は時としては病氣、時として媒介、又時として酒酔に依つて生ずる状態に有る。併し其の幻想を生ぜしむる原因は、生理學以上に深く研究をしなければ分らない。總て其の様な幻想は、殊に媒介に依つて生ずる時には、其の起る以前に神経が緩むもので有つて、必ず其の幻想を見る人に靈氣の光 (*æther light*) の波動を引き起す異常の磁氣の状態を生ずるので有る。種々の幻想を起すのは、之等の波動に有る。併し之は必ずしも醫者の所謂、只だ空虚の夢とは限らない。如何なる人も靈氣的波動に存在しない物、即ち其の波動に印象を與へないもの、を見る事は出来ないもので有る。併し天眼通は過去、現在、未來に於ても自分に少しも關係の無いものや光景を見る事が出来る。而して夫れと同時に互に全く關係の無いものを種々見るが故に非常に矛盾な事が起る。酒酔も天眼通も媒介者も又大仙人 (*Aden*) も「靈氣の光」に於て、各其の幻影を見る。只酒酔、狂人、訓練の無い媒介者、或は腦の熱した人は見やうと思はなくても見、自分では知らずに混亂の幻影を思ひ起し、之を支配する事が出来ないもので有る。併し大仙人や訓練の有る天眼通は、其の様な幻影を選択し、之を支配する事が出来るので有る。彼等は見るべき所を知り、見たいと思ふ場所を定め、「靈氣の光」の外層を

越へて見る法を知つて居るので有る。前者の場合では、其の見る事は幻影で、後者の場合では、其の見る事は實際有つた事、或は現在又未來に起る事の實現に有る。媒介者が偶然見た事及迷はしい光で見た幻影は大仙人や天眼通の意思の支配を受ければ、實際の繪、即ち自分の知覺の力に依つて見んとするものの實現になるので有る。

(九〇) *HELL* 地獄はアングロサクソン人がスカンデネヴィア語の *Hela* と云ふ女神の名から明かに取つた語に有る。夫れは恰も露西亞語や他のスラブ語の夫れと同様な意味を表す *Ad* と云ふ語は、希臘語 *Hades* と云ふ語から取つたのと同様に有る。スカンデネヴィアの寒い地獄と耶蘇教の云ふ熱い地獄との違ひは、唯其の國の氣候が違つて居るから有る。併し此の地獄が熱いと云ふ考は、歐羅巴人に始まつたのではなく、地獄が熱いと云ふ事を考へ出した人が前に多く有る。夫れは若し地獄が地球の中に有るとすれば、當然の考に有る。總て公然の宗教、即ちブラマン教徒、佛教徒、ゾロアスタ教徒、回教教徒、猶太人等は地獄は熱くて暗い所と思つて居る。併し恐ろしいと言ふよりも、面白い地獄が多く有る。地獄が熱いと云ふ考は後から出来た考で、天文學の比喩を曲解したもので有る。埃及人が地獄を火責の場所としたのは埃及の第十七八世よりも以前では無い。其の時に神で有つた *Typhon* は鬼にせられたので有る。併し

四〇七

乍ら、何時此の恐ろしい迷信を無智の衆民に教へ込んだにせよ、燃えて居る地獄で靈魂が苦しめらるゝと云ふ考は純然たる埃及の考で有る。Ra(太陽)は Kur 即ち Pharaohs の地獄で「寇の王」になり、而して罪人は「地獄の火」の中で苦しめられた。Birch 博士の説に依ると地獄には獅子が居つて「吠へる怪物」と言はれて居た。又或る人の説に依ると地獄は底の無い坑又は火の海で有つて、其の中に罪人は投げ込まれるので有ると言つて居る(聖書の約翰黙示録と比較せよ)。希伯來語の Gai-hinnom(Gehenna)には耶穌教で言ふ様な地獄の意味は決して無い。

(九二) HERMAS は昔の希臘の著者で、其の著書の中、今残つて居るものは断片に過ぎない。

(九三) HIEROGRAMMATISTS とは神聖秘密の記録を讀み書きする事を託されて居た埃及の僧侶に附けた稱號で有つて、文字通りの意味は「秘密記録の書記」で有る。彼等は得道の準備をして居る新信者の教師で有つた。

(九四) HIEROPHANT 「教僧」は希臘語の hierophantes から來た語で、文字通の意味は「神聖の事を説明する人」であつて、昔の寺の最高得道者に附けた稱號で有る。彼等は神秘の教師及説明者や又最終の大神秘に這入る人の指導者で有つた。教僧は造化主(demiurge)を代表して得道の候補者に教材に作つた種々の造化の現象を説明した。奧義教の秘密及教義を説明する者は彼の

他には無かつた。得道を受けない人の前で、彼の名を唱へる事でも禁じられて居た。彼は東に座を占め、權威の表號として金の球を首に掛けて居た。彼は又 mystagogus と言はれて居た(Makenzie と云ふ人の The Royal Masonic Cyclopaedia を見よ)。

(九五) HILIEL は耶穌紀元第一世紀頃バビロンに居た大學者で、法利賽派の元祖で有り、博識な聖人で有つた。

(九六) HINAYANA(梵語)は「小乘」で mahayana 即ち「大乘」に對して云ふ佛教の經文及び派で有つて、兩派共に神秘的で有る。又公然の迷信で云へば最下等の轉生で有る。

(九七) HYPNOSIS 催眠術は意思力の強い人が意思力の弱い人を恍惚の状態に入らしむる術にブリードと云ふ醫者が附けた名稱で有る。其の様な状態に這入れば、被術者は施術者の言ふ事は如何なる事でもする。秘密行者は此の術を悪魔術と云ふ。此の術は神經(nerve-fluids)に影響を及ぼすが故に、道徳上又肉體上最も危険なもので有る。

I の部

(九八) LAMBICHS は第三世紀の大靈智學者及得道者で有る。彼は降魂祈禱に依つて現れる種種の悪魔の事に就て多く著述をしたが、其の様な現象を厳しく非難した。彼は非常に嚴格で眞面目で、生活の純潔な人で有つた。彼は或る近世の Logos や媒介者の如く地上から十尋も浮揚したと云ふ事である。

(九九) ILLUSION 〓 「幻影」は秘密教に於て、有限のもの(宇宙及宇宙に於ける萬物)は悉く幻影即ち maya と云ふ。

(一〇〇) INDIVIDUALITY 〓 「真我」は靈智學や秘密教に於て、人間の上位の自我に附けた名の一つで有る。吾々は不死で神聖の自我及死す可き人間の自我を各區別する。後者即ち「人我」(人格的自我)は肉體の死後 Kamaloka に於て、只一時の間殘存するのみで有るけれども真我は永久に殘る。

(一〇一) INITIATE 〓 得道者は羅旬語の initiatus から來た語で有つて、Masonry 或は秘密教の神秘及秘密を授けられた人の名稱で有る。昔の得道者は「神秘」の教僧が教へた秘密の智識を受けたり人々で有つた。併し近世に於ては、神秘學の大仙人 (Adepts) に依つて秘密の智識を與へられた人と言ふ。其の秘密の智識の元は非常に古いけれども、眞正の得道者は少しまだ殘つて居る。

(一〇二) ISHVARA (梵語) は「神」(The Lord) 或は人格的神、即ち「人間の神靈」で、文字通りの意味は「自主」即ち「獨立の」生存の意味で有る。此の語は印度に於ける Shiva 及び他の神に附けた稱號で有る。Shiva は又 Ishyandeva、或は主の Deva と云ふ。

(一〇三) UKABAR ZIVO はノスチック語で有つて、ナザリオン派ではイオンの神 (the "Lord of the Fours") で有る。彼は七つの神聖の生 (Holy Lives) (即ち七つの主の Dhyan Chohans 或は大天使が各大徳の一つを代表して居る) の父祖(發現者)で有つて、自分は「第三の生」(第三の Logos) と云はれて居る。Codex Nazareus と云ふ本では、彼は「生の食物」の「舵」或は「葡萄蔓」と唱へられて居る。夫故に彼は「余は眞の蔓にして余の父は農夫なり」と言ふ Christ (〓 Christos) と同一で有る (John xv. 1) を見よ)。クリストが舊教會では、イオンの主と思はれて居る事は、よく知られて居る。神の様に思はれて居る Michael も同様で有る。ノスチック教徒も又其の様な事を信じて居た。

J の部

(10E) JAVIDAN KHIRAD (波斯語) は道德教訓の書で有る。

(10F) JHANA (Pali 語) は梵語の jana 即ち智識、秘密の智慧で有る。

(10G) JOSEPHUS, Flavius は第一世紀の歴史家で有つて、アレキサンドリア市に住んで居り、希臘化した猶太人で、羅馬で死んだ人で有る。彼はクリストに關する有名な十六行を書いたと Eusebius が言つて居る。併し其の十六行は昔の耶穌教僧侶の中で、最も有名な偽作者なる Eusebius が、自分で恐らく書き入れたものに違ひ無い。Josephus は熱心な猶太人で生涯猶太教を信じて居つたけれども、耶穌は救世主で有り、又神の子で有ると云ふ事を無理に認識させられた事が其の文に書いて有る。併し此の文は耶穌教の僧正(Lardner は其の一人)及 Daley に迄も、偽物で有ると今では言はれて居る。(Paley の Evidences of Christianity と云ふ本を見よ)。幾世紀も前から、此の文は耶穌の實在を最も有力に證明するものの一つで有る。

K の部

(10H) KABBALAH (希伯來語) 隱秘釋義法は神聖のもの及天地創造論に關する昔の秘密の教から取つた、中世の希伯來の大學者の秘密の智識で有る。其の秘密の教は、猶太人がバビロンで廢にせられた後に、一種の神學に成つた。秘密教の部類に屬する總ての著書は Kabbalah 的のものとなる。

(10I) KAMALOKA (梵語) は吾々人間には主觀的で見へない半物質的狀態で有る。其の狀態に於て、肉體を離れた人格、即ち Karma Rupa といふ此の靈氣的のものが下等の動物的情慾の幻影を造つた動機の結果が全く盡きなければ、其の狀態から消へ失せる事が出来ない。Kama-loka は、昔の希臘人が言ふ Hades で、埃及人が言ふ Amentu 即ち「無聲陰影の國」で有る。

(10J) KAMA RUPA (梵語) は形而上學及吾々の秘密哲學に於ては、物質的のものに關して起る精神的及肉體的の慾望及思想に依つて、總ての有情物が造る主觀的のもの、即ち其肉體の死後殘存するもので有る。其の死後に七本因中の三(即ち人間の本性及觀念力が働く感覺及知覺の狀態)即ち肉體、其の靈氣的原形及び肉體的の活動力は最早無用で有るが故に、此の世に残り、而して三つの上位の本因は一つに結合して Devachan(を見よ)の狀態に這入る。其の狀態に於ては上位の自我は生れ變りの時が来る迄留つて居り、元の人格の幻影は其の這入つ

た所 即ちカマローカに只獨り残つて居る。此の所では、元の人間の蔭が或る期間生き残る。此の期間の長短は其の状態に残つて居るものの性質に従つて變り、其の性質は死者の此の世の行に依つて定る。此の Karma Rupa は、其の高尙の心及び肉體の感覺を失つて居るが故に、爲すがまゝに任せて置ならば、段々消へ失せ、分離して仕舞ふ。併し此の世に残つて居る友人又は巫術や降魂術等に依つて此の世に無理に引き止められるならば、此の Karma Rupa は、其の肉體の生存の期間よりも長く残るかも知れない（此の術の有善なるもの一つは媒介で有る）。一旦カマルバが、生きて居る人間の肉體に歸へる事を覺へたならば、夫れに接したいと思ふ人々の活力を食ふ死靈となる。印度では其の様な幻影は Pisachas と言つて非常に恐れる。

(110) KAPILAVASTU (梵語)は釋迦の生れた所で「黄居」(Yellow dwelling)と言ひ、釋迦の父なる王の都で有つた。

(111) KARDEC, Allan は佛蘭西の亡魂論者の元祖の又の名で、其の實際の名は Rivaille で有つた。或る媒介者が恍惚の状態で言つた事を集めて出版し、其の後一八五五年から一八七〇年の間に之を一種の哲學とした人で有る。

(112) KARMA (梵語)は肉體的に言へば「活動」で、心理的に言へば「應報の法則」、即ち原因

結果の法則、或は道德の原因發動で有つて、悪い Karma の意味に於てのみ Nemesis (希臘人が言ふ應報)で有る。Karma は正佛敎に於ける原因結果の連鎖の第十一 Nidana で有る。併し Karma は總てのものを支配する力、精神的行の結果、形而上的 Samskara 或は人間の希望を満たす爲にした行の結果で有る。Karma には善の Karma と惡の Karma とが有る。Karma は賞罰をしないで、一つの宇宙的法則に過ぎないもので有る。其の宇宙的法則は、原因に従つて定つた結果を生ずる。總て他の法則を誤まらず、言はゞ、自然に導くもので有る。佛敎で Karma は「轉生」、即ち生れ變りに於て肉體の死後迄残り繼續する唯一の「道德の心髓」で有ると教へて居るのは、人格の死後に残るものは、其の人格に依つて生じた原因より外に何も残らないと云ふ意味に過ぎない。其の原因は不死で有る、即ち其の當然の結果が來り、即ち言はゞ其の結果に依つて拭ひ去らるゝ迄は宇宙から取り除く事が出來ないもので有る。夫れ故に其の様な原因は、之を生ぜしめた人間が生きて居る間に、充分な結果を以つて償はなければ、生れ變つた自我の後を追つて、其の次ぎの生れ變りに於て之と結合し、終に原因結果が完全に調和するので有る。單に物質的分子及び本能や腦の働の一塊に過ぎない人格は、無論眞の精神界に於て、永久に残る事は出來ない。眞の性質が不死で有り、又其の精が神聖のもの（即ち眞我）

でなければ、永久に存在する事は出来ない。Devachan から出る度毎に其の這入る可き人格を擇び、又は等の人格に依つて、其の生じたる Karma の原因の結果を受けるものは、其の真我で有る。夫れ故に肉體の死後残存するものは、真我、即ち其の自己計りで有る。之は前に述べた「道德の心髓」で、又實際有體のカルマ其のもので有る。

(一一三) KETJHER (希伯來語)は十 Sefiroth の頭、即ち最高で神聖なる三つのものの第一で有る。之は Macroprosopos 即ち「大面」或は Chokmah 及 Binah に分離する所の Arikh Anpin である。

(一一四) KRISHNA (梵語)は Vishnu の最も有名の生れ變り、即ち印度の「教主」で一番名高い神で有る。Krishna は第八の生れ變りで Devaki の子、印度の Herod なる Kansha の甥で有る。此の Kansha は Krishna を匿して居いた牧羊者や牧牛者の中を探つて、彼等の子供を幾干となく殺害した。Krishna が胎つて生れ、子供の時代の此の話は、新約全書に有る話と丁度同様で有る。無論耶蘇教宣教師は、印度人が此の話を昔自國に來た耶蘇教徒から取つたので有ると言つて居る。

(一一五) KSHEPRAJNA 或は Kshehrajñeshvara (梵語)は秘密教に於ては、有體の「靈」即ち最高の

の發現の狀態に於ける知覺的自我で、生れ變りの本因、即ち人間の中に有る「神」(“Lord”)である。

(一一六) KUMARA (梵語)は潔白の青年で有つて、最初の Kumara 等は Brahma の七人の子で、所謂第九の「創造」に於て、神の肢から生れたので有る。子孫を作らないと言つたが爲に、其の名を附けたので有る。傳説に依れば、彼等は「Yogis に成り通した」と云ふ事である。

L の 部

(一一七) LABRE, St. は數年前に莊嚴なる式を以つて上人に祀られた羅馬人で有る。彼は羅馬市の入口に四十年間晝夜座つて居つて、一度も浴をしなかつた爲めに蟲に食はれて骨計りに成つた。そんな事で彼は聖人と稱せられた。

(一一八) LAO-TSE (支那語) 老子は孔子と同時代の偉い聖人で哲學者で有つた。

(一一九) LAW OF REPRIBITION 因果應報の法則。Karma を見よ。

(一二〇) LINGA SHARIRA (梵語)は靈氣體、即ち肉體の氣體的複體である。此の語は Doppelgänger 即ち人間や動物の靈氣體と言ふ意味で有つて、希臘人の言ふ幻影 (eidolon)、即ち生氣的及原形的

體、即ち肉體的人間の反影で有る。此の靈氣體は人間よりも先に生れ、肉體の最後の分子が消へ失せると同時に消滅して仕舞ふ。

(二二) LOGOS (希臘語)は何れの國に於ても發現したる神、即ち常に隠れて居る原因の發現、即ち結果で有る。例へば言語は思想の Logos で有る、夫れ故に其の形而上學的の意味に於て、此の語は Verbum 或は Word と云ふ意味に譯してあるのは適當であらう。

(二三) LONG FACE 長面は隱秘釋義法の言葉で、希伯來語の Arikh Anpin、即ち「長面」で有つて、希臘語では「短面」即ち Zeu Anpin なる Microprosopos に對して云々 Macroprosopos で有る。前者は神の事を言ひ、後者は「大形の肖像」、即ち人間の事を言ふ。

(二四) LONGINUS, Dionysius Cusius は第三世紀の初め(耶穌紀元二二三年頃)に生れた有名な批評家及哲學者で有る。彼は大旅行家でアレキサンドリア市で新ブレトン派の元祖なるアンモニアス、サカスの教を受けた。併し其の弟子と云ふよりも寧ろ批評家で有つた。Lophry (猶太人の Malek 或は Malchus) と云ふ人はプロチナスの弟子に成る前に、彼の弟子で有つた。彼は生きた圖書館、歩るく博物館で有ると言はれて居た。彼は後年に至つて Palmyra の女王たる Zenobia と云ふ人の希臘文學の教師に成つた。其の女王は彼の勢に報ひるに、皇帝 Aurelian

に對して謀叛を勸告したと訴へ、其の廉を以つて Longinus は其の皇帝に依つて他の者と共に死刑に處せられたので有る。

M の 部

(二五) MACROCOSMI 大宇宙は Kosmos の事である。

(二六) MAGIC 法術は「大科學」と云ふ意味で有る。Deveria 及び他の東洋學者の説に依ると太古より最も文明で學問の進んだ國民は、法術は宗教と相離る可からざる神聖の科學で有ると思つて居たと云ふ事である。例へば埃及人は、最も眞誠なる宗教的の國民で有つた。又印度人な昔も今も其の通りで有る。法術は神の崇拜で在つて、又之に依つて得らるゝもので有る」とブレートは言つて居る。然らば昔の記録の明かな證據に依つて、幾千年も前から法術を固く信じて居る國民は、其の様に長い間騙されて居る筈はないのである。又中には多く犠牲、神聖、禁慾主義の生活をした者が有る。博學で信神深い僧侶が幾代も「奇蹟」の信仰を永續させる爲に、自分及び世人(世人のみでも)を騙したと云ふ事は有り得可からざる事である。狂信者は自分の信する神や偶像を人に信せしむるには、如何なる事でもすると云ふ事であるが之に對して吾々は次ぎの如

く答へる。「其の様な場合には Brahmins 及埃及の Rishis-priests 或は教僧は、人間は法術に依つて神々の助を求め、事が出来ると云ふ事を、一般の人に信せしめない。其の神々は實際に於ては、秘密の力或は自然の力に過ぎないので有る。而して、其の力を一つの未知無名の本因の屬性として、神の様に崇めて居る博學の僧侶が、之を人體の神にして居た」。プロト一派の Proclus と云ふ人が次ぎの様に言つて居る、「其の僧侶は自然のもの又は秘密の力に表れて居るものには互に一種の關係と同情とが有ると云ふ事を考へ、又總てのものは一の全に含まれて居ると云ふ事を知つたなら彼等は此の相互の同性と同一なる事を神聖の科學と爲し、奧義的目的に、天地の性質を用ひたので有る。而して或る同一性を利用して、神聖の性質を此の下界に引き及ぼしたので有る。』法術は下界の力を支配するのみならず、天上の力と交通する科學で有り、又自然の隠れた秘密を實際的に知る法で有る。此の秘密を知るには法則に背き、罪を犯し易いが爲めに之を知る者は少数で有る。太古及び中世の神秘學者は法術を三つの種類、即ち Theurgia Goetia 及び自然法術(Natural Magic)に分類して居る。Theurgia は長い前から靈智學者や形而上學者の特別の範圍に屬するものとされて居る』と、Kenneth Mackenzie が言つて居る。Goetia は惡魔術で有るが「自然」、即ち「善法術」は効能が有るが爲に、科學的及び進歩的に研究され

る様に成つた。此の人の説は注意を拂ふに足るもので有る、即ち「近世の實利的慾望の爲に法術は惡評及び嘲弄を引き起す様に成つた……」

信仰(己れを信仰する事)は法術の缺く可からざる要件で有つて、昔から存在して居ると云ふ他の思想よりも遙かに以前から存在して居たもので有る。賢者でなければ愚者に成る事が出来ないとするれば、眞の法術者に成るには、人は思想を殆ど狂氣の状態に達せしめなければならぬ。即ち其の腦髓の感覺は近世文明の下等の状態よりも、遙かに優らなければならぬのである。如何となれば、此の法術を行ふと云ふ事は、幾分か孤立及び犠牲を意味するので有る。此の所謂「孤立」は實際大した事で有つて、之を遂げる事丈でも奇蹟の様で有る。併し法術は自然以上の業では無い。アイアンブリカスが述べた如く「彼等は僧侶の法術に依つて高尚で宇宙的の精及び運命以上の者、即ち神及び造物主の状態に達する事が出来る。併し物質にも依らず何物をも利用しないで、只だ時期を観察するのみで有る。既に今迄自然界に知られなかつた微妙の力及び性が有る事を認め始めた者が有る。併し或る作者が言つて居る如く、「第十九世紀に於ては新思考法の創作又舊思考法の完成も起らなかつた」。之に付け加へて Bonwick 氏が言つて居る即ち「昔の人は吾々の自然秘密の研究法を餘り知らなかつたけれど吾々は彼等の研究法

を尙更知らないので有る。』

(二二六) MAGIC, BLACK 〓 惡魔術とは妖術 或は靈氣的力の濫用を云ふ。

(二二七) MAGIC, CEREMONIAL 〓 隱秘釋義法の儀式に依ると、鍊金方士や他の秘密教徒が言つて居る如く、人間よりも精神的に高尚なる力を求め、又生存の状態に於て人間よりも遙かに下等の原素靈 (elementals) を支配して行ふ魔術を言ふ。

(二二八) MAGIC, WHITE 〓 善法術或は「慈善法術」は利己心、權力、愛好心、野心、利慾心がなく、世界一般、殊に隣人に利益を施さんとする神聖の法術で有る。自己を満足させんが爲に普通以上の力を少しでも用ひんとすれば、此の力を惡魔術に化するもので有る。

(二二九) MAHAMANYANTARA (梵語)は Manus 即ち宇宙的活動の間に來る「大期間」で有る。此處で言ふ Manvantara は輪期の長短に關せず、Pralya 即ち休息に對して言ふ活動の期間を言ふのみで有る。

(二三〇) MAHAT (梵語)の文字通りの意味は「偉大なるもの」で有つて、宇宙的智力及び知覺の第一本則で有る。Puranic 哲學では、「根原的自然」即ち pradhana (malapratika と同じ)の第一の結果、又 manas 即ち思考する本因及び ahankara 即ち自己或は下位の manas に於ける「余は余なり」と云ふ感覺を生ぜしむるもので有る。

(二三一) MAHĀTMĀ (梵語)の文字通りの意味は「大靈」で有り、最高の大仙人 (Adept) で有つて、自分の下位の本因に打ち勝ち、肉體の人間に妨げられずに、生きて居る聖化した者で有る。Mahatmas は其の精神的進化に於て達した状態と相等しき智識や力を有つて居る。Pali 語では 𑀅𑀲𑁄𑀓 Arāhats 或は 𑀅𑀲𑁄𑀓 Rāhats と云ふ。

(二三二) MAHAYANA (梵語) 〓 大乘は佛教哲學の一派の事で有つて、文字通りの意味は「大導子」で有る。此の派は Nagarijuna が開いた神秘教で有つて、其の教典は耶穌紀元前第二世紀に書いたもので有る。

(二三三) MANAS (梵語) 〓 意の文字通りの意味は「心」「mind」で、人間を有智及び道德的のものに爲し、動物と異らしむる精神的官能で有つて、Mahat と同意義で有る。併し奧義教に於て其の意味を制限しなければ上位の自我、即ち人間の有智的で生れ變りをする本因で有る。其の意味を制限する時には靈智學者は之を人間の反映、即ち Kama-Manas に對して Buddhi-Manas 即ち「精神體」と云ふ。

(二三四) MANASA-PUTRA (梵語)の文字通りの意味は「心の子」即ち「心生兒」で有つて、人間

に這入らない前に、吾々の上位の自我に附けた名で有る。比喩及び記號的では有るけれど、公然的 Purānas (印度の昔の神話の書) では Brahma の「心生兒」、即ち Kumāras に附けた稱號で有る。

(一三三) MANAS-SUTRĀṬMĀ (梵語)の二語は「心」或は「意」(Manas)及「連鎖靈」(Thread soul) 即ち Sātrīma と云ふ意味で有つて、前に述べた如く、吾々の眞我、即ち生れ變りをするものと同意義で有る。此の語は Vedānta 派哲學の學語で有る。

(一三二) MANAS TĀIJASA (梵語)の文字通の意味は「發光」Manas、即ち與義的形而上學者でなければ、理解し得なから上位の自我の状態で有つて、Buddhi-Tāijasa (を見よ)と同一で有る。

(一三三) MANTRAS (梵語)は祈禱、或は呪文の文句に用ひる Vedas と云ふ本から取つた詩編で有つて、Mantras と云ふ事は Brahmanas 或は其の解釋と異なる Vedas の部分と言ふ。

(一三三) MANU (梵語)は印度の大立法者で有る。此の名は「考へる」と云ふ意味の梵語の根 Man から取つたので有る、併し MAN は實際 Svayambhūva 即ち Manu の第一と云ふ意味で有つて、Manu は Svayambhū 即ち「自存」から始まつたので有る。夫れ故に Svayambhū は Logos 及人間の先祖で有る。Manu は立法者の始で殆んど神に近いもので有る。

(一三二) MANVĀNTARA (梵語)＝摩奴期は Pralaya 即ち「休息」に對して云ふ發現の期間で有つて、種々の循環期殊に「Brahmā の一日」即ち四「三二〇、〇〇〇、〇〇〇年及び Manu の一代、即ち三〇八、四四八、〇〇〇年の期間を示す語で有る。此の語の文字通りの意味は Manu-antara、即ち Manus の間で有る。(Secret Doctrine の第二卷六八頁を見よ)。

(一四〇) MASTER 大仙人は「精神的導師」と云ふ意味の梵語 Guru から譯した語で有つて、靈智學者が教を受けて居る Adept (大仙人)の事を言ひ表はす爲に用ひた語で有る。

(一四一) MATERIALIST 唯物論者は神も靈魂も無いと信じて居る人のみを言ふのでなくて、純精神的のものを物質視する人を言ふ、即ち人身同形の神及び地獄の火の中で靈魂が燃へるのを信じ、又地獄極樂を知覺の状態としないで、場所として信じる様な人を言ふ。米國の耶穌教の一派なる「Substantialists」は唯物論者で有る、又所謂「亡魂論者」(Spiritualists)も同様で有る。

(一四二) MATERIALIZATIONS 物化とは降魂術に於て物質の外衣を着て往々再現する所謂「死人の靈」の物質的發現を云ふ。其の物化したるものは居合はせる人々の靈氣中に存在するものを利用して死人の人體的形像を生存中の如くに裝ふ一時的の體形を造るので有る。靈智學者は

此の現象を信じて居るけれども、其實顯は靈魂、即ち肉體を離れた人間の不滅の本因が生ぜしむると云ふ説を信じない。靈智學者は其の現象が實際で有る(之は一般に信じて居る程には無い事で有る)ならば、Iaiyoe、即ち「幻影」或は Kamaloka に在る死んだ人格の幽靈に依つて生ぜしめらるゝと云ふ事を信じて居る (Kamaloka 及 Kama Rupa を見よ)。Kamaloka は此の世の狀態に在つて、此の世の物質の度合と異なる所は其の知覺の狀態の度合のみで有る。之が爲に Kamaloka は吾々の普通の目には見へないので有る。夫れ故に其の様な「外殼」が時々現はれるのは火の玉や他の空中現象が現はれるのと同じく自然で有る。電氣は流氣體或は分子體(秘密學者は Maxwell 氏と同じく電氣は原子的 (atomic) で有ると信じて居る)となつて、空中に於ては目に見へないけれども、常に存在して居るもので有る。此の流氣體は、又種々の形に成つて現れる事が出来る。併し或る條件が其所に在つて、之を實顯させなければ出来ない。其の條件が備つた時には、見へない狀態から見へる狀態に移つて吾々に見へる様に成るので有る。死人の幽鬼 (eidolons) も又其の通りで有る。其の幽鬼は吾々の周圍に存在して居るけれども、異なる狀態に居るが爲に、吾々が彼等を見る事が出来ない如く、又彼等も吾々を見る事が出来ない。併し生きて居る人間の切なる希望及び媒介者の身體の異常の狀態に依つて與へられたる條件が結合す

れば、之等の幽鬼は自分の狀態から、見へる狀態に無理にでも引き付けられて吾々に見へる様になるので有る。之は即ち巫術 (Neuromancy) で、死人に何の益もせず、其の上、自然の法則に背くのみならず、生きて居る人に大なる害を及ぼすので有る。靈氣體或は生きた人間の複體が時々實顯するのは、全く別問題で有る。之等の靈氣體は、往々死人の幽靈と間違へられる事が有る。如何となれば、吾々の靈氣體は肉體を離れた者の靈氣體及び宇宙の靈鬼 (elementals) と同じく、變化自在で、吾々の心中に最も強く思つて居るものゝ姿を装ふ事が有る、一言に言へば所謂物化の場で奇妙な實顯を爲すのは、其所に居合はせる人及び其の媒介者で有る。獨立に現はれるものは異つた心靈の現象に屬するもので有る。

(一四三) MAYA (梵語)は「幻影」で有つて、現象の存在及び之を見る力を與る宇宙的力を言ふ。印度の哲學では、變化なく無窮のものでなければ、實在とは言はず、腐敗及び分離に依つて變化し、故に始めも終りも有るものは、總て Maya、即ち幻影と看做されて居る。

(一四四) MEDIUMSHIP 媒介は人間の想像及び幻想(實在的或は自分が造つたもの)を實在のものと思はせる「心靈—生理」的狀態を示すに用ひる語で有る。生理的及び心靈的狀態に於て全く健全なる人は媒介者に成る事は決して出来ない。媒介者が見、聞き、感ずる事は「實在」では

有るけれども「眞實」でなくて、人を迷はす靈氣的状態、或は見る者の心以外には實在しない純粹の幻想から来るもので有る。其の媒介をするのに、此の術を行ふ病的の者は、生きて居る人間と死んだ人の幽霊との間に立つて交通をはかる者と思はれて居る。此の忌はしい術を習ふのに一定の方法が有る。

(一四五) MERCURY (希伯來語)は「馬車」と云ふ意味で有る。隠秘釋義學者の説に依ると上帝が十の Sephiroth (之を皆な合すれば Adam Kadmon 即ち原型の人間)を定めた後に、彼等を「馬車」、或は、玉座に用ひ、之に乗つて人間の靈魂に降つたもので有ると言つてある。

(一四六) MESMERISM 催眠術と云ふ語は Mesmer と云ふ人の名から取つたので有る。此の人は元から有つた此の磁力と其の實際の用法とを一七七五年に ヴイエンナで再び発見したので有る。此の力は、人が他の人に移す事の出来る活動電流で有る。而して此の力に依つて施術者が被術者の心及び意志に直接の影響を及ぼす神経の異常の状態を起すので有る。

(一四七) METAPHYSICS 形而上學は「越へる」と云ふ意味の Meta 及び「物質界の物」と云ふ意味の Phylaka と云ふ希臘語から來たので有る。此の語を「自然を越す」即ち「自然以上」と譯すのは此の語の精神を忘れて、死文字通りで有る。如何となれば、此の語の意味は寧ろ「實體

的の自然物に越へる」と云ふ意味で有る。實體學及び哲學に於ける「形而上學」と云ふ語は、實在及び永久のものを空幻、現象的のものに相對して論ずる科學を表す爲めの語で有る。

(一四八) MICROCOSM 小宇宙は「人間」と云ふ意味で、人間を造るもの、即ち「大宇宙」の姿に造つたもので有つて、大宇宙に在るものは、總て之に含まれて居る。此の二語は秘密學や靈智學で用ひられる。

(一四九) MISHNAH (希伯來語)の文字通りの意味は「反覆」で、口で言ふ事を「繰り返す」と云ふ意味の Mishnah と云ふ語から取つたので有る。猶太人の口碑を集めて説明を付けたもの、及び後に出了た Talmud と云ふ本の基礎と成つて居る經文を順序したもので有る。

(一五〇) MOKSHA (梵語)は「涅槃」と同意義で有つて、「休息」及び「靈魂巡禮」の死後の天福の状態を云ふ。

(一五一) MONAD 元子は「單一」と云ふ意味で有る、併し秘密學では、結合した二重本因即ち Atma-Buddhi 或は人間の不死の部分と云ふ意味で有る。此の不死の部分、下界に這入り其の下界から段々人間に進歩して、夫れから最終の目的なる涅槃に達するので有る。

(一五二) MONAS (希臘語)。ピサゴラス派では二重本因(Dius)は上位のたつた一つの單本因(Mo-

nas)から發現する、夫れ故に Monas は「本原」で有ると云つて居る。

(一五三) MONOGENES (希臘語)の文字通りの意味は「一人生れ」で有つて、Proserpina 及び他の女神や男神の名で有る。又耶蘇も此の稱を受けて居た。

(一五四) MUNDAKA UPANISHAD (梵語)の文字通りの意味は「Mundaka 秘教」で有つて太古の著書の名で有る。

(一五五) MYSTERIES 〓 神秘即ち「神聖神秘」は昔の寺院で奥義教を知つて居る教僧が奥義教に入らんとする者を教へる爲めに演じたもので有る。其の中で最も莊嚴で秘密的で有つたものは、儘かに Bonvic 〓 の所謂「秘密を守る團體」の教僧が埃及で演じたもので有る。Maurice が其の性質を簡單明瞭に説明して居る。Philo (ナイル島)で演じた神秘の事を次ぎの様に言つて居る「女神 (Isis)の莊嚴の神秘的秘密を、熱心な候補者に演じて見せたのは、此の暗い洞窟の中で有つて、莊嚴なる入會式の歌が此の岩窟の隅々迄響いた」。神秘 (Mystery) 〓 云ふ語は「口を閉ぢる」と云ふ意味の希臘語 Muto から來たので有つて、之に關係して居る表號は悉く、秘密の意味を有つて居る。プレートや他の昔の聖人が多く言つて居る通り、神秘は倫理學として、非常に宗教的、道德的、慈善的で有つた。希臘の神秘 (即ち Ceres 及び Bacchus の神秘)は

埃及の神秘の模倣に過ぎなかつた。而して「埃及の信仰及近世の思想」と云ふ本の著者は吾が英語の「Chapel 或は Capella」と云ふ語は「Caphel 即ち 〓 即ち太陽の神の事を教へる學校で有る」と言つて居る。よく知れて居る Kabiri は神秘に關係がある。

一言に言へば「神秘」は何れの國に於ても一種の演劇で有つて、宇宙創造及び自然の秘密は大概僧侶や新信徒が其の役を務め、種々の神に成り、其の神の傳記に依つて想像の場 (比喩)を演出したので有る。之等の神秘は奥義教に入らんとする者に、秘密の意味で説明せられ哲學に組織されたので有る。

(一五六) MYSTERY LANGUAGE 〓 神秘語は奥義に通じた僧侶が神聖の事を論ずる時にのみ用ゐる秘密語で有る。何れの國にでも、神秘語が有つて、神秘に通じた者の外は誰も知らない。

(一五七) MYSTIC 〓 神秘學者は希臘語 Mystikos から來たので有つて、昔では古代の神秘に通じた人と言ひ、現今に於ては神秘術を行ひ神秘的超絶的思想を有つて居る人と言ふ。

(一五八) MYSTICISM 〓 神秘學は神秘及び形而上學に關して居つて、此の現實の宇宙よりも理想的世界の事を論ずるを言ふ。

N の部

(一五九) NAZARENE CODEX 又は Nazarenes 又 Nabathens の聖書を言ふ。或る昔の耶蘇教僧正、即ち Jerome 殊に Epiphanius の説に依れば、此の聖書は、異教徒の教で有るけれども、實際は宇宙創造論及び神統記に關する種々の Gnostic 教の解釋の一つで有つて、獨立の一派を起したもので有る。

(一六〇) NECROMANCY 巫術は死人の姿を呼び起す術で有つて、昔及び近世の秘密學者は悪魔術の一種で有ると思つて居る。Jamblicus、Porphyry 及び他の神術者 (Theurgists) が此の術を非難して居るのは丁度昔の巫女を死刑に處したモーゼと同様で有る。其の巫女は往々只媒介者に過ぎなかつたので有る。例へば Ender の巫女及 Samuel の如き者は左様で有つた。

(一六一) NEO-PLATONISTS 新プラトニ派哲學者は耶蘇紀元第二及第三世紀の間に起つた哲學の一派で、アレキサンダリア市の Ammonius Saccas と云ふ人が開いたので有つて、Platonians 及び Analogicists と同様に彼等は神術者及び種々の名を以つて知られ、初世紀中の靈智學者で有つた。新プラトニ主義はプラトニ哲學に入神態を加へたもの、即ち神聖の Raja Yoga で有る。

(一六二) NEPHESH (希伯來語)は「生の息」或は Anima, Mens Vite 又情慾の意味で有る。此の語は聖書では、曖昧に用ゐられて居るが、大概は Prana 即ち「生」の意味で有る。隱秘釋義法の本では Nepheesh は動物的情慾及び動物の靈魂の意味で有る。夫れ故に靈智學の教で唱へて居る如く Nepheesh は Prana-Kama の本因、即ち人間の生及び動物の靈魂で有る。

(一六三) NIRMĀNAKĀYA (梵語)は奧義哲學に於ては、普通に言ふ意味と異り、又東洋學者の想像とは全然異つて居る。或る人は Nirmānakāya 即ち體を "Nirvanavi th remains" (Schlagintweit の如く)と言ふ。之は多分 Nirmānakāya は知覺と體とが残つて居る一種の涅槃の狀態で有ると思つて居るからで有る。又或る人は Nirmānakāya は佛教を弘める爲に如何なる形態、或は様子を装ひ得るところの Trikaya (三體)の一つで有ると言ひ (Intel 氏の説)、又 Nirmānakāya は神が肉體に這入つた所の Avatara で有ると言つて居る (同上)。併し之に反して (Voice of the Silence と云ふ本を見よ) 秘密教では Nirmānakāya は文字通りの意味は變化した「體」と云ふ事で有るけれども、之は一種の狀態で有ると言つて居る。其の體は Dharmakāya 即ち絕對涅槃の狀態よりも其の死後の狀態に好んで這入る大仙人 (Adept) 或は Yogi の體で有る。彼が此の狀態に

這入るのは *Darmakaya* が彼を有形界から永久に分離して、自己天福の状態を彼に與へるから有る。併し其状態には他の生きて居るものは這入る事が出来ない。夫れ故に大仙人 (*Adept*) は人間或は *Devas* であるも助ける事が出来なくなる。併し *Nirmanakaya* となつた大仙人 (*Adept*) は自分の肉體のみを後に残り、*Kama* の本因を除けば他の本因は悉く残して有つて居る。如何となれば、彼は此の世の生存中に自分の性質から *Kama* を永久に除き去る。之は彼の死後の状態には決して復活する事は出来ないのて有る。夫れ故に彼は自己的幸福の状態に這入らないで、犠牲の生活を選ぶので有る。此状態は、目には見えないけれども、最有力の方法を以て人間を助ける爲に、生の輪期の有る限り續くので有る。 (*Voice of the Silence* と云ふ本の第三章の "The Seven Portals" を見よ)。斯くの如く *Nirmanakaya* は普通に信じられて居る通り佛 (*Buddha*) 或は菩薩 (*Bodhisattva*) が此の世で現はれる肉體ではなくて此の世の生存中に *Chieftain* 或は *Khulikan* 又 *Adept* 或は *Yogi* でも *Karma* の範圍内に於て、常に人間を保護する所の彼の目に見えない團體の一人と成つたもので有る。 *Nirmanakaya* は往々「靈魂」「神」又「上帝」自身と間違へられて、其の助を受けるに足る人には、常に保護同情を寄せる眞の「護の天使」に成る。此の教に如何なる反對が起らうとも、又如何に否定するゝとも (如何となれば

此の教は今迄歐洲に知られず。又東洋學者にも知られないが爲に、近世發明した神話に違ひ無いと思ふ人が有る) 自分を永久犠牲に供して、人間の苦を助けると云ふ此の考は古來人間の脳髓に宿つた理想中で最も壯大、高尚のものであると云ふ事を大膽にも非認し得る人は無いので有らう。

(一六四) *NIRVANA* (梵語) 涅槃は東洋學者の説に依ると、蠟燭の火の如く「全く吹き消す事」、即ち生存の全滅の意味で有る。併し與義教の説明に依れば、涅槃は絶対生存及び絶対知覺の状態で有つて、其の状態には此の世の生存中に完全神聖の最高度に達した人間の自我が肉體の死後、又時としては釋迦其他の場合に於ける如く、此の世の生存中に這入るので有る。

(一六五) *NIRVANI* (梵語) は「涅槃に這入つた人」即ち解脱したる靈魂で有る。涅槃は東洋哲學者の子供らしい説と大いに異なる意味で有ると云ふ事は、印度、支那、日本に行つた事の有る學者は誰も宜く知る所で有る。涅槃に這入つた人は不幸 (物質的不幸) から脱れる事、*Klesha* 或は *Kama* から脱する事及び動物的情慾の全滅と云ふ意味で有る。 *Abhidharma* と云ふ本に涅槃は、絶対消滅の状態で有ると云ふ事が書いて有るが、吾々の意見は之に一致して居る。而して、此の消滅は、物質或は物質界に關係して居る總ての物のみに適用する」と吾々は付け

加へて言ふので有る。其の譯は只物質界（其の中に含んで居る總ての物）は幻影即ち Maya で有るから有る。釋迦が臨終に「精神的の體は不死で有る」と言つた。支那學者の Hsueh 氏が次ぎの如くに之を説明して居る。「普通公然效で消極的に涅槃を轉生から全然免れた状態又あらゆる生存の状態、第一に總ての情慾及び働から全然離れた状態、又總ての感覺に關しない状態で有ると云ふのは皆一致して居る。而して『苦んで居る人間に總ての同情がなく成る』と吾々は付け加へて言はなければならぬ。而して之が爲に Dharmakaya の衣よりも Nirmanakaya の衣の方を選ぶ菩薩 (Bodhisattvas) が Nirvanis より一般に尊敬せられるので有る。併し氏は尚ほ次の如くに付け加へて居る、「積極的に云へば（與義的にも）涅槃は絶對の不死であるといふ、如何となれば精神的天福の最高の状態、即ち靈魂、導る靈が涅槃に這入つても、個性を保存して居るが爲めである。夫れ故に佛が涅槃に這入つて後に此の世、即ち未來の Manvantara に再現する事が出来る。」

(一六六) NOUMENON (希臘語) とは感覺の幻影的の物と區別したる Being の眞の性を言ふ。

(一六七) NOUS (希臘語) はプラトニ派で、上位の心或は靈魂を表はす語で有つて、動物的靈魂即ち Psyche と異りたる靈 (Spirit) を意味するので有る。此の名はノスチック教徒が其の第一の

知覺的 *Ion* を表はす爲に用ひたので有る。其の *Ion* は秘密學者が宇宙的に言ふ第三 *Logos*、即ち人間の(上から)第三本因、即ち *Manas* で有る。

(一六八) NOUȚ (埃及語) は埃及の衆神論では「一唯一」(The "One-Only-One") の意味で有る。如何となれば之は何れの國の與義哲學に於ても「知り得可からざるもの」及「未だ知れざるもの」から發する所の第三發現を（公然宗教に於ては）越へないから有る。Anaxagoras の言ふ *Nous* は印度人の言ふ *Mahat*、即ち *Brahma*、即ち第一の發現したる神、又「自能的心」或は「精神」で有る。此の創造本因は宇宙に存在する總てのものの原動力、即ち其の靈或は觀念力で有る。

0 の 部

(一六九) OCCULTISM = 秘密學或は秘密術。"Occult Sciences" を見よ。

(一七〇) OCCULTIST = 秘密學者は秘密術を行ふ者、即ち秘密科學の與義を知つて居る者を言ふ。

併し往々只の研究者の事をも言ふ。

(一七一) OCCULT SCIENCES = 秘密科學とは物質的、心靈的、心知的及び精神的の自然秘密の科學

を言ふ。西洋に於ては隠秘釋義法が有り、東洋に於ては、神祕教、法術及び Kōshō 哲學が有る。後者は印度に於て弟子 (Chelas) が往々第七 Darshana (或は哲學派) と言ふもので、印度には俗界に知られて居る Darshanas は六つ外無い。之等の科學は昔から今日に至る迄も、俗人には秘密にして置かれて有る。如何となれば利己的の教育を受けた人は、決して之を解せず、自分の利益の爲に之を濫用し、夫が爲に此の神聖の科學を惡魔術にして仕舞ひ、又之を研究する事を好まざる無教育者は之を理解しないから有る。隠秘釋義法及び奧義哲學の書物は、譯が分らず無意味で普通の人間には理解の出来ない事が多く書いて有ると云ふ非難が往々出る。併し醫學、生理學、化學及び他の科學も同様では有るまいか。科學者は譯の分らぬ新造の希臘、羅甸の術語で科學の事實や發見の意味を暗まして居るまいか。故 Kenneth Mackenzie 氏が言つて居る如く、『單純な事實を此様に六けしくするのは現今科學者の手段で有つて、第十七世紀の科學者とは雲泥の差で有る。彼等は鋤と言つて農具と言はない。』之のみならず若し科學者の事實を普通の言葉で言ひ表したならば、夫れは單純で誰にでも分るので有るが、秘密學の事柄は複雑で大概の場合では、之を表す可き語が歐羅巴の國語に無いので有る。最後に吾々が六ヶしい言葉を使ふのは、二つの必用が有る、第一は秘密學語に通じた人に、之等の事實を明了に表す

事、第二は俗人に其の事實を秘密にする事である。

(一七三) OLYMPIODORUS はアレキサンドリア派の有名なる最後の新ブレトン派哲學者で、第六世紀に Justinian 皇帝の時代に居つた人で有る。耶蘇以前及び以後に彼と同名の著者や哲學者が數人在つて、其の中の一人は Proclus の師で有り、又一人は第七世紀の歴史家で有つた、又其の他に色々の人が有つた。

(一七三) ORIGEN は第二世紀の末に多分亞弗利加で生れた耶蘇教僧侶で有る。此の人の事は殆んど世に知られて居ない。如何となれば彼の傳記の斷片は古今無類の虛言者なる Eusebius に依つて後世に傳へられたから有る。彼は Origen (Origenes Adamantius) の手紙を百以上も集めたと言はれて居る、併し其の手紙は、今では全く紛失したと云ふ事である。Origen の著作の中靈智學者に最も趣味の有るものは、彼の「靈魂先在說」で有る。彼は Annonius Sacas の弟子で有つて長い間此の大哲學者の教を受けた。

P の 部

(一七四) PANTÆNUS は Philalethians のアレキサンドリア派の哲學者である。

(一七五) PANDORA は希臘の神話に依れば Vulcan が Prometheus を欺き、彼が人間に與へた賜物を奪ふ爲に土で造つた初めての女で有る。神がその Pandora に、何か性質を與へて、之を箱に入れ、プロミセアスの處に持つて行かせた。併し彼は先見が有つて、パンドラを退け、其の贈物を禍に變じた。夫れ故に彼の兄弟 Epimetheus が後にパンドラと結婚した時に、此の箱を開けると同時に、今人間を惱まして居る總ての禍が此の箱の中から出て、夫れから以來此世に残つて居るので有る。

(一七六) PANTHEIST 凡神論者とは「神は自然なり」又「自然は神なり」と云ふ人を云ふ。若し吾が神を無限遍在の本因と看做すならば、此の説は然らざるを得ないので有る。夫れで自然は只神の物質的狀態即ち其の體で有る。

(一七七) PARABRAHMAN (梵語)は Velantūn 派の語で「Brahma 以上」と云ふ意味で有つて、最上絶對の本因、無人格、無名で有る。Veda と云ふ本では之を「HAT」と云つて居る。

(一七八) PARANIRVANA は佛教哲學で涅槃の最高なるもの即ち「涅槃以上」で有る。

(一七九) PARSIS とは今印度、殊にボンベイ及グジャラットに住んで居て、ゾロアスタ教を現在信じて居る波斯人、即ち太陽及び火を崇める人を云ふ。彼等は其の國中で最も才智に富み、尊敬を

受けて居る一つの社會で有つて、大概は商業に従事して居る。彼等は凡そ千年前に印度に居住したもので有つて、今残つて居るものは五萬乃至六萬有る。

(一八〇) PERSONALITY 人格或は人我。秘密學に於ては人間を三つの状態、即ち神聖の人間、思考する理性的人間及び背理的即ち動物的人間の三つに分つて居る。又形而上學では人間は七本因分離法に依つて論せられて居る。即ち靈智學で云ふのと同様に、人間は七つの本因から成り立つて居て、其の中の三つは上位の三本因となり、残りの四つは下位の四本因になるので有る。人格は其の四つの本因中に在つて、此の世の生の記憶、知覺を含んで居る總ての特徴を含有する。眞我は單一と看做されたる三本因の上位の自我即ち Māns である。即ち言ひ替ゆれば眞我は吾々の不死の自我で有つて、其の自我は生れ變りをして、其の生れ變る度毎に新しい人格に這入るので有る。

(一八一) PHALIC WORSHIP は生殖器崇拜で、印度に於ける Shiva 及び Durga の如く兩性を表號して居る男神及び女神に對する崇拜信仰を言ふ。

(一八二) PHILADELPHIANS 文字通りの意味は「同胞を愛する人」で有つて、第十七世紀に Jane Lead と云ふ人が開いた一つの宗派で有る。此の派の人は教會の儀式及び教儀、或は教會其のもの

の迄にも反對した。併し精神上に於ては内部の神、即ち己の自己或は己の宿る神に依つて導かれると稱して居た。

(一八三) PHILALETHIANS。新プラトニ派 (Neo-Platonists) を見よ。

(一八四) PHILO JUDEUS はアレクザンドリア市の希臘化した猶太人で、第一世紀の有名な歴史家及び哲學家で耶蘇紀元前卅年に生れ紀元後四十五年から五十年の間に死んだ人で有る。Philologia が唱へた聖書の記號法は非常に著名で有る。聖書の中に擧げて有る鳥、獸、蟲、木及び場所は皆「靈魂の状態、官能、性質或は情の比喻で有ると云ふ事」で有る。而して鐵物界、天、地、星、泉、川、野、野、住家、又金屬、物質、武器、衣裳、飾、家具、身體及び其の部分、兩性及び吾等の外面の状態等も同様で有る。有益の植物は道德の記號で、有害のものは無智の情の記號であつた (Dict. Christi, Biog) 此等のものは、總てフロロが昔の隱秘釋義法に通じて居たと云ふ事を確證するもので有る。

(一八五) PHILOSOPHER'S STONE = 仙丹は錬金術に於ける學語で有つて、The powder of projection とも言つて、下等の金屬を純金に變化する力を有つて居る不思議の「本素」で有る。靈智學では人間の下等動物的性質を最高の神聖のものに變化する法を言ふ。

(一八六) PHREN は未だ Buddhi-Manas に掩はれて居る吾々の所謂 Kama-Manas を表す、ピサロラス派の學語で有る。

(一八七) PLANE = 状態は平坦と云ふ意味の羅旬語 Planus から來た語で有つて、物質的或は形而上學的の意味に於て、空間の延長で有る。秘密學では知覺の或る状態の範圍、或は或る知覺力又は或る力の働に一致する物質の状態を言ふ。

(一八八) PLANETARY SPIRITS = 遊星靈とは遊星を政める者、即ち遊星の神で有る。

(一八九) PLASTIC = 成形的は電氣體の性質及び精、即ち Protan Soul (變り易い靈魂) に關して秘密學で使ふ語で有る。

(一九〇) PLEROMA は「充滿」と云ふ意味でノスチック教の語である。セントポールも此の語を用ひた。之は「神靈の世界」即ち「神の居る所」で有り、形而上學の Eons に分けた宇宙的空間を言ふ。

(一九一) PLOTINUS は第三世紀の有名な新プラトニ派の哲學家で徳と學問で有名なる實際的大神祕學者で有る。彼はヘマンチン派と同じ教を唱へて居る。即ち靈魂は一つの神聖の本因から發現したので有つて、此の世の總ての生れ變りが終つて後に其の本因と又結合すると云ふ事を

唱へた人で有る。

- (一九三) PORPHYRY (Porphyrius) の實際の名は Melech であつて、夫れが爲に彼は猶太人と思はれる様になつた。彼は「Tyre」から來た人で、始め有名の哲學者で批評家なるロンギナスに就て學び、羅馬でプロチナスの弟子になつた。彼は新ブレントン派の哲學者で有名の著者で有る。殊に神術に關してアイアンブリカスと議論を戦はしたが爲に有名になつた。併し彼は終に其の敵の意見を信する様になつた。彼は生れ付きの神祕學者で、其の師プロチナスの如く純粹の印度のラジャयोगを信じて居た。其の教は訓練に依つて靈魂を宇宙の「大靈」と結合せしめ、又人間の靈魂と其の神聖の靈魂、即ち Buddhi-Manas と結合せしむるので有る。併し彼は何の位努めても三昧の最高の状態には只一度、然も六十八歳の時に達したのみで有ると言つて居る。併し彼の師のプロチナスは生存中に此の最高の天福の状態に六度達した事が有る。
- (一九三) POF AMUN はエジプト語で Anun の神、即ち智慧の神を祭つた者の意味であつてトレミ一王の時代に居た埃及の僧侶及び秘密學者の名で有る。
- (一九四) PRAJNA (梵語) は「宇宙心」(Universal mind) を表はす爲に用ひた語で Mahat と同意義で有る。

- (一九五) PRALAYA (梵語) は「休息」と即ち意味で Manvantara の反對で有る。前者は休息の期間を言ひ、後者は遊星或は全宇宙の活動(死活)を言ふ。
- (一九六) PRĀNA (梵語) は生の本因、即ち生の氣なる Nephesh を言ふ。
- (一九七) PROFEAN SOUL 變り易き靈は Mayavi rupa 即ち「思想體」(Thought-body) 即ち大仙人(Adept) の思想力に依つてあらゆる形を爲す高尚の靈氣體に對する語で有る。
- (一九八) PSYCHISM はあらゆる種類の心靈的現象、即ち最高の感覺のみならず媒介を表す爲に現今用ひる語で有つて、新たに造つた語である。
- (一九九) PURĀNAS (梵語) の文字通りの意味は「昔のもの」(the Ancient) と云ふ意味で、印度の神話の書物及教書を言ふ。其の数は非常に多く有る。
- (二〇〇) PYTHAGORAS は耶穌紀元前五八六年頃に Samos と云ふ所で生れた非常に名高い希臘の神祕哲學者で有る。彼は太陽中心説及び輪廻説又最高の數理及び形而上學を教へた人で有つて全世界に有名な學校を開いて居つた。

Q の 部

(1101) QUATERNARY 四本因は人間の下の四本因、即ち人間の人格(或は人我)肉體、靈氣體、Prana 即ち生、情慾の官能及び下位の Manas (即ち腦心)を成す所の本因を言ふ。之は上位の精神的靈魂、心、及 Atma (上位の自我)から成り立つ上位の三本因に對して言ふ。

R の部

(1102) RECOLLECTION, REMEMBRANCE, REMINISCENCE. 秘密學者は之等の三つの語の意味に各區別を付ける。併し註解には悉く言葉の細かい差異を充分に説明する事が出来ない爲に、只だ之等の語は過去或は現在の生れ變りに關するか、或は是等記憶の種類が精神的或は物質的の腦、又或は「真我」或は「人我」から發現するかに隨つて、其の語の適用が異ると云ふ事より以外は此所に述べる事が出来ないもので有る。

(1103) REINCARNATION, or Rebirth 生れ變りは自我は此の世で幾度も生れ變りをする事と云ふ事を教へて、嘗て一般に信じられた教で有る。併し現今に於ては耶穌教徒は之を否認して居る。彼等は自分の聖書の教を誤解して居る様で有る。然るに人間の上位の靈魂(Buddhi-Manas)即ち真我が定期的に長い循環期中、肉體に宿ると云ふ説は、總て他の昔の聖書と同じく耶穌

教の聖書にも教へて有る。而して「復活」と云ふ事は自我が異なる體に生れ變ると云ふ事に過ぎない。

(1104) REUCHLIN, John は獨逸の偉い哲學者、語原學者、隱秘釋義學者及び大學者で有つた。彼は一四五五年に獨逸の Pforzheim と云ふ所に生れ、若い時に外交官になつた。彼は Lützingen と云ふ所の裁判官の役に就き、十一年の間留任した。又彼は Melancthon と云ふ人の教師となり、希伯來の隱秘釋義法を崇めたが爲に僧侶に酷く迫害された。併し乍ら彼は「改宗祖」(「The Father of the Reformation」)と稱へられたので有る。其の頃教會の死文字的形式に反對した者は皆同様の運命に會つた如く、彼は貧苦の中に一五二二年に一生を終つたので有る。

S の部

(1105) SACRED SCIENCE 神聖科學は一般の神祕科學に付けた名稱で有つて、又鍊金方士が隱秘釋義法哲學、特に鍊金術哲學に付けた名稱で有る。

(1106) SAMADHI (梵語) 三昧は印度で言ふ精神的歡喜の状態の名で有つて、神祕的集中に依つて起る完全恍惚の状態を言ふ。

(1104) SAMKHIARA (パー語)は佛教で言ふ五蘊 (Skandhas) 即ち屬性の一つで「心の傾向」を言ふ。

(1105) SAMMA SAMBUDDHA (パー語)は人間の過去の過去の總ての生れ變りをも、急に思ひ出す事、即ちヨガに依つて得たる記憶の現象で有つて、佛教神秘學の語で有る。

(1106) SAMOTHRACE は希臘群島中の一島で、昔其所の寺院で行つた「神秘」を以つて有名で有る。此の「神秘」は世界に名高く有つた。

(1110) SAMYUTTAKA NIKĀYA (パー語)は佛教の Suttas の一つで有る。

(1111) SANNĀ (パー語)は五蘊 (Skandhas) 即ち屬性の一つで「抽象的觀念」と云ふ意味で有る。

(1112) SEANCE 〓 魂呼は種々の現象を見る爲に媒介者と同座する事を表すに當今用ひられ重に降魂信者間が用ひる語で有る。

(1113) SELF 〓 自我。人間には二つの自我、即ち上位及び下位、無人我及び人我的「自我」が有る。一つの「自我」は神聖で、他の「自我」は半動物的で有る。此の二つはよく區別しなければならぬ。

(1114) SEPIROTH は希伯來の隱秘釋義教で言ふ Ain Suph、即ち無人我的宇宙的本因、即ち

神 (Deity) から發する十の神聖なる發現を表はす語で有る。

(1115) SKANDHAS 〓 五蘊は各人我的屬性で有つて、此の屬性が肉體の死後、言はば Karma に依つて又生れ變る基礎を作るので有る。其の Skandhas の數は佛教の普通公然教では五つ有る、即ち「第一」Rupa 即ち「形」或は「體」で其の死後電氣的分子及び神秘的類縁を残す。「第二」Vedana 即ち感覺で、矢張り同様のものを残す。「第三」Sanna 即ち「抽象的の觀念」で他の生れ變りに移る活動的創造力で有る。「第四」Samkhara、即ち「心の傾向」で有る。「第五」Virtana 即ち「精心力」で有る。

(1116) SOMNAMBULISM は「睡遊」と云ふ意味で、心靈生理的狀態として宜く知られて居るから説明の必要が無い。

(1117) SPIRITISM 〓 Spiritualism と同じで有るが、Spiritualists は殆んど昔輪廻説を否認して居る。併し Spiritists は其の輪廻説を彼等の信仰の基礎として居る。併し作ら Spiritists の意見と東洋の秘密學者の哲學的教には大なる差異が有る。Spiritists は Allan Kardec が開いた佛蘭西派に屬し、英米の Spiritualists はニューヨーク州のロチェスター市で起つた Fox (フックス) 姉妹の類で有る。靈智學者は Spiritualists 及び Spiritists の言ふ媒介の現象は、實際起るもので

有ると信じて居るけれども、彼等の所謂「Spirits」を認めない。

(二一八) SPIRITUALISM は死者の魂が此の世に歸つて来て生者と交通すると云ふ近世の信仰を言ふ。

(二一九) ST. GERMAIN, COUNT. は第十八世紀の終り及び第十九世紀の始めに佛蘭西、英國及び其の他に表れた不思議な人で有る。

(二二〇) STHŪĪA SHARIRA (梵語) は秘密學及びヘンタ哲学で言ふ「人間の肉體」を言ふ。

(二二一) STHŪĪOPĀDHI (梵語) は覺醒知覺の状態 (Jagrat) に在る肉體を言ふ。

(二二二) SŪKSHMOPĀDHI (梵語) は夢 (Svapna) の状態に在る肉體及び Karanopādhi 即ち原體或は緣由體 (The "Causal body") を言ふ。是等の言葉は Tāraka Raja Yoga 派の學語で有る。

(二二三) SUMMERLAND は Spiritualists が其の肉體を離れた魂 (Spirits) の居る場所に付けた想像の名で有つて、其の場所は何所か天の川に在ると言つて居る。其の場所は、此の世へ歸へる魂 (Spirits) の言ふ所に依れば、立派な市や建物、國會議事堂、博物館等の有る美しい所であると言ふ事である。

(二二四) SWEDENBORG, Emanuel は第十七世紀の有名な學者及び天眼通で、科學に大いに貢獻し

た博學者で有る。併し彼の唱へた神秘學及び超越哲學は餘り幻想的で有つた。彼は今では Swedenborg 派、即ち新 Jerusalem 教會の元祖として一般に知られて居る。彼は一六八八年に瑞典のストックホルム市で生れ、親はルーサー派の人で有つて、父は西 Gothland の僧正で有つた。彼の元の名は Swedberg で有つたけれども一七一九年に華族に列せられた時に、Swedenborg と變へたので有る。彼は一七四七年に神秘學者となつて、其の後四年、即ち一七四七年に鑛山學校の特別顧問の役を辭し、全身を神秘學に委ね一七七二年に死んだ人で有る。

T の部

(二三五) TAJJASA (梵語) は「火」と云ふ意味の Tejas から來た語で、「發光するもの」と云ふ意味で、Mānasa-rūpa 即ち「Manas の體」又星及び星の如く光る髮狀光の事を言ふ。此の語は Vedantin 派哲學の學語で有つて、上に擧げた陰秘的以外の意味が有る。

(二三六) TĀRAKA RĀJA YOGA (梵語) は婆羅門教の Yoga 派の一つで、最も哲學的、又實際に最も秘密的で有る。如何となれば、其の實際の教は今迄公然に發表した事が無い。此の派は純粹の智力的及び精神的の派で有る。

(三二四) TETRAGRAMMATON (希臘語)は四字で綴つた神の名(エホワー)で有る。之を英語にすれば IHVH である。此の語は隠秘釋義法の學語で有つて、物質状態に於て神聖のピサゴラス派の Tetraktys と一致する。

(三二八) THEODIDAKTOS (希臘語)は「神に教へられた者」と云ふ意味で有つて、アンモニオスサクヌに付けた名稱で有る。

(三二九) THEOGONY (希臘語)は希臘語 Theogonia から來た語で文字通りは「神の創世紀」(The genesis of the gods) と云ふ意味で有る。

(三三〇) THEOSOPHIA (希臘語)の文字通りの意味は「神聖の智慧」或は「神の智慧」で有る。

(三三一) THERAPEUTAE 或は Therapeuts (希臘語)は猶太の神秘教の治療者或は奧義教徒の學派で有つて、普通に言ふ宗教の派ではない。彼等はアレクサンドリヤ及び其の附近に居て、其の行為及び信仰は今日に到る迄も、批評家には分らない。如何となれば彼等の哲學は Orphic 派、Pythagoras 派、Essenian 派及び純隱秘釋義教の教を結合した様なもので有る。

(三三二) THEURGY = 神術は希臘語 Theourgia から來た語で遊星的及び他の靈魂、或は神を此の世に呼び降ろす業を言ふ。神術者が此の目的を實行するには其の動機が絶対に潔白で、利己心が

有つてはならない。神術を行ふ事は現今に於て甚だ好ましくなく、又危険で有る。今の世界は餘り腐敗して居るからアンモニオス、プロチナス、ポーフアイリ、及びアイアンブリカス(總ての神術者中で最も博學の人)の如き神聖の學者以外には、此の業を安全に行ふ事は出來ないので有る。現今に於て神術、即ち神聖の慈善法術は、兎角の ego 即ち惡魔術に成り易いので有る。神術は法術の三つの分類即ち神術的法術、エチツク魔術、及び自然的魔術の第一で有る。

(三三三) THREAD SOUL = 達索靈は Saktima と同じで有る。Manas-saktima を見よ。

(三三四) THUMOS (希臘語)はピサゴラス派及びプレトン派の語で有つて、情慾の Kama-rupa の状態を表す爲に人間の靈魂の状態に適用した語で、梵語の tamas、即ち「暗黒の性質」と殆んど同意義で有る。此の語は多分此の tamas から來たので有る。

(三三五) TIMEUS OF LOCRIIS は Loius と云ふ處で生れたピサゴラス派の哲學者で有つて、輪廻説に就て、自分の師と幾分か意見を異にして居た。彼は「世界の靈魂」又其の性質及び精に就て書物を著した。此の書はドリツク語で書いて有つて今尚存在して居る。

(三三六) TRIAD or Trinity = 三位一體は何れの宗教及び哲學に於ても、三を一つにしたもので有る。

U の部

四五四

(三三六) UNIVERSAL BROTHERHOOD = 世界同胞主義は靈智學運動の重なる目的で有る。(註 11 及 60 を見よ)

(三三八) UPADHI (梵語) は物の基礎、土臺を言ふ。丁度秘密教に於て物質は精神の Upadhi 有ると言ふのと同様で有る。

(三三九) UPANISHAD (梵語) の文字通りは「奥義教」(esoteric doctrine) と云ふ意味で有つて Vedas の第三分類で「現示」(Shruti 即ち「現示の語」(revealed word) と同様で有る。Upanishads は今尙百五十或は二百も存在して居る。併し全く神聖のものとして信用し得べきものは、十二に過ぎない。此の十二のものは、耶穌紀元前第六世紀よりも前のもので有る。聖書の奥義の意味を説明する隱秘釋義法の如く Upanishads は Vedas の神秘的の意味を説明して居る。Cowell 博士はウパニツシヤードに關して二つの説を立てて居る。之は正確で面白い説で有る。即ち彼は次ぎの如くに言つて居る。「第一」之等の著書は一つの特徵、即ち其の教に婆羅門教の獨占主義が全然無い事有る…… Upanishads は全く異つた主義を唱へて居る Rig Veda の詩を除け

ば、昔の著書には無い思想の自由を有つて居る。「第二」上位の智識(Gupta-vidya)の大教者及び婆羅門教徒は弟子(Chelas)と成る爲め Kshatriya 王の所に行く様に往々書いて有る。之は全く「イ」ウパニツシヤードは階級及び婆羅門教徒の權力が行はれない前に書いたもので有つて、ヘダスを除けば最も古いもので有る。而して「ロ」秘密科學即ちカウエル博士の所謂「上位の智識」は印度に於ける婆羅門教徒、兎に角、階級制度よりも遙かに古いもので有ると云ふ事を證明して居る。併しウパニツシヤードは Gupta-vidya 即ち「秘密科學」よりも遙かに新しいものである。如何となれば「秘密科學」は人間の哲學的思想と同様に古いもので有る。

V の部

(三四〇) VĀHAN (梵語) は機關 (Vehicle) といふ意味で Upadhi と同意義で有る。

(三四一) VALLABĀCHĀRYAS (梵語) は Mahārājah 派で、極端の生殖器崇拜派で有つて、其の本部はボンベイ市に有る。此の派の崇拜する本尊は、赤子の Krishna で有る。英國の印度政廳は此の派の淫卑の儀式や行爲を禁する爲に數度干渉しなければならなかつた、而して其の首導者なるマインラシヤ即ち高僧の如き者を牢に投じたのは當然で有る。此の派は實に印度の最も甚だ

四五五

しき汚點を有る。

- (二四二) VEDANTA (梵語)の文字通りは「智識の絶頂」と云ふ意味で六つの Darśanas 即ち哲學派では之を Upanishads 或は後の Mimāṃsā と云ふ。此の教の奥義の意味を解しないで、之を無神論と思ふ人が有る。併し之は間違つて居る。如何となれば Shankarācārya と云ふ此の派の大傳導者は印度の最も偉い神祕學者及び大仙人 (Adept) の一人で有つた。
- (二四三) VIDYĀ (梵語)は智識或は算術「智慧—智識」と云ふ意味で有る。
- (二四四) VINNĀNA (Pāli 語)は五蘊 (Skandhas) の一つで有つて、奥義教では「心智の力」と云ふ意味で有る。

W の部

- (二四五) WISDOM RELIGION = 智慧教は靈智學と同じで有つて、總ての公然教の基礎なる秘密教に付けた名で有る。

Y の部

- (二四六) YOGA (梵語)は Patanjali と云ふ人が開いた一つの哲學派で有る。併し彼の時代以前に教及び道徳として定つて居た。 Yajñavalkya と云ふ有名なる昔の聖人が White Yajur Veda 及 Shatapatha Brahmana 及 Brihad Aranyaka を著したと言ふ事である。彼は Mahābhārata と云ふ本が出た前に居た人で神學及隱退の必要を唱へた故にヨガ教を開いたと言はれて居る。マツンスマラ博士は佛敎布敎の道を開いたのは Yajñavalkya で有ると言つて居る。併し Patanjali の Yoga 教は哲學としては一層確定して居て、ヤジナバルキヤが書いたと云ふ何れの著書よりも、靈秘科學の教を多く含んで居る。

- (二四七) YOGI 或は Yogin (梵語)は熱心信者即ち Yoga の術を行ふ人と言ふ。 Yogis には種々の階級及び種類が有つて、Yogi と云ふ語は今では印度であらゆる禁慾主義を表す爲に用ゐる一般的名となつた。

- (二四八) YUGA (梵語)は世界の或る一時代の意味で有つて、其の時代は、四つで Kṛitā (或は Satya) Yuga 即ち黄金時代、Treta Yuga, Dvāpara Yuga 及 Kali Yuga 即ち暗黒の時代の順に續いて居る。今は Kali Yuga の暗黒時代で有る。

Z の部

(IIEB) ZENOBIA は Aurelianus 皇帝に征服せられたる Palmyra の女王で、第三世紀に於ける有名^{有名}の批評家^{批評家}で、論理學者^{論理學者}なる Longinus と云ふ人の弟子^{弟子}で有つた。

(IHO) ZIVO, Kabar 或は Tu-Kabar は Nazarene Codex と云ふ本^本に書いて有る創造^{創造}する神^神の一個^{一個}の名^名で有る。

(IIEI) ZOHAR (希伯來語) は「光榮の書」即ち第一世紀に Simeon-ben-Iochai が著^著したと言^言ひ隠秘釋義法^{隠秘釋義法}の書物^{書物}で有る。

(IIEII) ZORASTRIAN は Parsis 即ち太陽或は火を崇める宗教^{宗教}を信する人^人を云ふ。

註 解 終

世界人類及動物の爲めに設立せられたる

世界同胞及靈智學會

『眞理に勝る宗教なし』

目 的

本同胞會は太古より活動し來れる世界的大運動の一部分なり。

本會は同胞主義を以て自然界の一事實とし、其の主要の目的は同胞主義を教へ、之を證明し、人生の活動力となすにあり。

第二の目的は往古及近世の宗教、科學、哲學及び美術を研究し、天然の法則及人間の靈性を考究するにあり。

『世界同胞及靈智學會』は千八百七十五年ニューヨーク市に於てエツチ、ピー、ブラブツキー女史に依つて創立せられ、同女史死後は其共立者た

るウイリアム、キユー、ジャツジ氏の指導の許に繼續せられ、現今は其の後繼者たるカセリン、チングリー女史其會長たり。

本會の本部は北米加州ボイントローマにありて他に「靈智學」の名稱を有せる何れの會とも何等の關係なく又之を認めず。

「世界同胞及靈智學會」は何人を問はず、眞に同胞を愛し、太古より人種及び宗教の差異より生ずる人類發達の阻害を除去せんと欲するもの、又は眞理を愛し、欲界の一次的歡樂に勝れる高尚精神的のものを求めんとし、靈智學をして人生の活動力たらしめんと努むる人々の入會を歓迎す。又本會諸部はかゝる人に活動の機會を無限に與ふるものなり。本會の事業は總て其の憲法の示す如くカセリン、チングリー女史の支配を受くるものなり。

注意

世には靈智學及吾靈智學會の名を利用して私利をはかり、又其創立者たるブラワツキー女史の名を用ひて虚榮心を満し、又世人の補助を受けんとする輩の多きは誠に遺憾なる事なり。此の輩が斯かる事をなすには公私の會場、又は出版物を以てし、或は國中に講演を試みる事あり。

「世界同胞及靈智學會」とは何等の關係なきも、往々恰も關係あるもの、如くに云ひふらし、社會を誤り、誠實の人をして、ブラワツキー女史、ジャツジ氏、及びチングリー女史等が唱導し、以て人類向上の爲めに靈智學運動に於て實地に應用しつゝある靈智學眞理の道を踏み誤らしむるものあり。

萬國同胞組合(一八九七年カセリン、チングリー創立)

目的

一、男女をして職業の神聖なるを覺らしめ、人生に於ける眞の己の位置

を自覺せしむるを助く。

四

二、世界同胞の大主義に基きて世界萬國の子弟を教育し、貧困孤獨の兒童をして人類の爲めに働くものたらしむ。

三、不幸の境遇にある婦女を助け、高尚なる生活の途につきしむ。

四、入獄中、或は出獄したるものを補助し、正業につかしむ。

五、死刑を廢止する事。

六、所謂野蠻人種と文明人種との間の融和を計り、兩者間に親密なる同情的關係を増進するにあり。

七、洪水、饑饉、戰爭其他より生ずる人類の災害を救濟し、世界中の悩める人々に對して救助の道を計る事。

以上に關して尙詳細を知らむとするものは左記へ照會せらるべし。

北米加州 ポイントローマ

カセリンチングリー

KATHERINE TINGLEY,

International Theosophical Headquarters,

Point Loma, California, U. S. A.

明治四十三年十二月十五日發行
明治四十三年十二月十五日發行

定價金壹圓五拾錢

著作
權
所有

發譯者兼

相州 運子

イー、エス、ステブンスン

發譯者兼

相州 運子

宇 高 兵 作

印刷者

東京市小石川區久堅町百〇八番地

水 谷 景 長

印刷所

東京市小石川區久堅町百〇八番地

博文館印刷所

東京市日本橋區本町三丁目

發賣所

博文館

✦ BOOK LIST ✦

OF WORKS ON
BROTHERHOOD, THEOSOPHY, OCCULTISM, RELIGION, PHILOSOPHY,
SCIENCE AND ART

PUBLISHED OR FOR SALE BY
THE THEOSOPHICAL PUBLISHING COMPANY

International Theosophical Headquarters

POINT LOMA, CALIFORNIA, U. S. A.

ON SALE AT:—

Messrs KELLY & WALSH Ltd.
NO. 60, YOKOHAMA

Messrs MARUYA & Co's. BOOKSTORE
TOKYO

(東京市日本橋區丸善書店)

ADDRESS BY KATHERINE TINGLEY at San Diego Opera House, March, 1902.	\$.15
A CHURCHMAN'S ATTACK ON THEOSOPHY (G. de Purucker)05
ASTRAL INTOXICATION, and Other Papers (W. Q. Judge)05
BHAGAVAD GITA (revised by W. Q. Judge). The pearl of the Scriptures of the East. American Edition; pocket size; morocco, gilt edges.....	1.00
CONCENTRATION, CULTURE OF (W. Q. Judge)05
DEVACHAN; or the heavenworld (H. Coryn)05
ECHOES FROM THE ORIENT; a broad Outline of Theosophical Doctrine. By William Q. Judge. <i>New Point Loma Edition</i> . Sm. 8vo, cloth,50
Paper,25
<i>21 valued articles, giving a broad outline of Theosophical doctrines, writ- ten for the newspaper reading public</i>	
EPITOME OF THEOSOPHICAL TEACHINGS, AN, (W. Q. Judge); 40 pages,....	.15
FREEMASONRY AND JESUITRY, The Pith and Marrow of the Closing and Coming Century and Related Position of, (Rameses).....	.15
8 copies for \$1.00; per hundred, \$10.00	
ISIS UNVEILED, by H. P. Blavatsky. 2 vols., royal 8vo, about 1500 pages; cloth, with portrait of the author. <i>New Point Loma Edition, with a preface</i> . Postpaid,	7.00
KEY TO THEOSOPHY, THE, by H. P. Blavatsky. <i>New Point Loma Edition</i> , with <i>Glossary</i> and exhaustive <i>Index</i> . Portraits of H. P. Blavatsky and William Q. Judge. 8vo, cloth, 400 pages. Postpaid.	1.70
LIFE AT POINT LOMA, THE: Some Notes by Katherine Tingley. (Reprinted from the <i>Los Angeles Saturday Post</i> , December, 1902).....	.15
LIGHT ON THE PATH (M. C.), with Comments, and short chapter on Karma. Authoritative rules for treading the path of a higher life. <i>New Point Loma Edition</i> , pocket size edition of this classic, embossed paper.....	.25
Bound in black leather,75
MYSTERIES OF ANTIQUITY (G. de Purucker).....	.05
MYSTERIES OF THE HEART DOCTRINE, THE. Prepared by <i>Katherine Ting- ley</i> and her pupils. Square 8vo, cloth,.....	2.00
Paper,.....	1.50
A SERIES OF 8 PAMPHLETS, comprising Different Articles in above, paper, each,25

The Path Series. Specially adapted for inquirers in Theosophy.
Already published:

- No. 1—THE PURPOSE OF THE UNIVERSAL BROTHERHOOD AND THEOSOPHICAL SOCIETY05
- No. 2—THEOSOPHY GENERAL STATED (W. Q. Judge)..... .05
Reprinted from official Report, World's Parliament of Religions, Chicago, 1893
- No. 3—MISLAID MYSTERIES (Herbert Coryn, M.D.)..... .05
- No. 4—THEOSOPHY AND ITS COUNTERFEITS05
- No. 5—WHY DOES KATHERINE TINGLEY OPPOSE HYPNOTISM?05
 Thirty copies of above Path Series, \$1.00; one hundred copies, \$3.00

Miscellaneous. SOUVENIR POSTAL-CARDS OF LOMALAND.

- Two for 5c; postage 1c. extra; 50 copies, postpaid, \$1.00; 100 copies, postpaid, \$1.50
- PATH MAGAZINE, THE—Vol. IX ('94-'95), Vol. X ('95-'96), each..... 2.00
- PATH MAGAZINE, THE—Index to Vols. I to VIII; cloth50
- PATH MAGAZINE, THE—Back numbers; each20
- SEARCHLIGHT, No. 6—Full report of the Great Debate on Theosophy and Christianity held at Fisher Opera House, San Diego, Cal., September and October, 1901. 72 pages. Special number issued to the public15
- SEARCHLIGHT, No. 715
- SEARCHLIGHT, Vol. II, No. 115
- UNIVERSAL BROTHERHOOD MAGAZINE } Back numbers, each..... .20
- UNIVERSAL BROTHERHOOD PATH }
 Vols. XIII (1898-'99), XIV ('99-1900), XV (1900-'01), XVI (1901-'02), each 2.00

LOTUS GROUP LITERATURE.

LOTUS LIBRARY FOR CHILDREN

- Introduced under the direction of Katherine Tingley.*
- 1 THE LITTLE BUILDERS, and their Voyage to Rangî (R. N.)..... .50
- 2 THE COMING OF THE KING (Machell); cloth gilt edges35
- LOTUS SONG BOOK. Fifty original songs with copyrighted music; boards50
- LOTUS SONG—"The Sun Temple," with music15
- LOTUS GROUP INSTRUCTION BOOKS. Manual No. 2—Evolution Series. Set of twelve leaflets for No. 1 and No. 2, per set..... .10
 (Lessons for use in undenominational Sunday-schools)05

Theosophical Periodical

Century Path

Illustrated. Weekly

Edited by KATHERINE TINGLEY

A Magazine devoted to the Brotherhood of Humanity, the Promulgation of Theosophy and the Study of Ancient and Modern Ethics, Philosophy, Science and Art.

Year \$4.00 - - - - - Single copy 10 cents

Write for a sample copy to

NEW CENTURY CORPORATION,
 POINT LOMA, CALIFORNIA

SECRET DOCTRINE, THE. The Synthesis of Science, Religion, and Philosophy, by H. P. Blavatsky. *New Point Loma Edition*; with Index. Two vols., royal 8vo., about 1500 pages; cloth Postage prepaid..... 10.00
 To be reprinted from the original edition of 1888, as published by H. P. Blavatsky.

YOGA APHORISMS (translated by W. Q. Judge), pocket size, leather75

Greek Symposia, as performed by Students of the Isis League of Music and Drama, under the direction of Katherine Tingley. Already published (fully protected by copyright):

- 1 THE WISDOM OF HYPATIA15
- 2 A PROMISE15

New Century Series. THE PITH AND MARROW OF SOME SACRED WRITINGS.

Ten Pamphlets, issued serially; Scripts, each25
 Subscription 1.50

Already published:

- SCRIPT 1—*Contents:* The Relation of Universal Brotherhood to Christianity—No Man Can Serve Two Masters—In this Place is a Greater Thing
- SCRIPT 2—*Contents:* A Vision of Judgment—The "Woes" of the Prophets—The Great Victory—Fragment; from Iihagavad Gitâ—Co-Heirs with Christ—Jesus the Man
- SCRIPT 3—*Contents:* The Lesson of Israel's History—The Man Born Blind—Man's Divinity and Perfectibility—The Everlasting Covenant—The Mysteries of the Kingdom of Heaven—The Burden of the Lord
- SCRIPT 4—*Contents:* Reincarnation in the Bible—The Mysteries of the Kingdom of Heaven—The Temple of God—The Heart Doctrine—The Money-Changers in the Temple
- SCRIPT 5—*Contents:* Egypt and Prehistoric America—Theoretical and Practical Theosophy—Death, One of the Crowning Victories of Human Life—Reliance on the Law—Led by the Spirit of God.
- SCRIPT 6—*Contents:* Education through Illusion to Truth—Astronomy in the Light of Ancient Wisdom—Occultism and Magic—Resurrection.

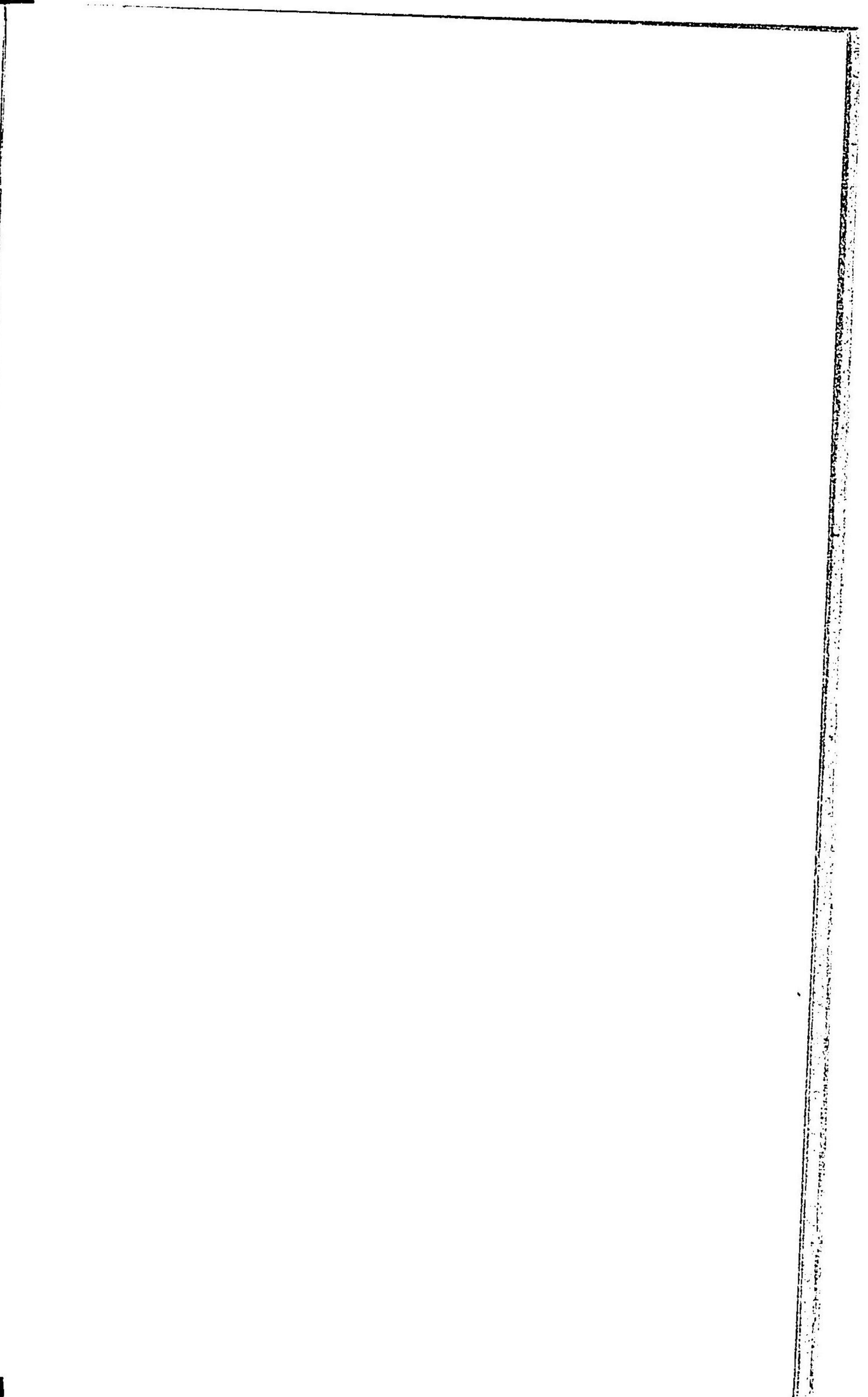
Occultism, Studies In. (H. P. Blavatsky). Pocket size, 6 vols., cl., per set..... 1.50

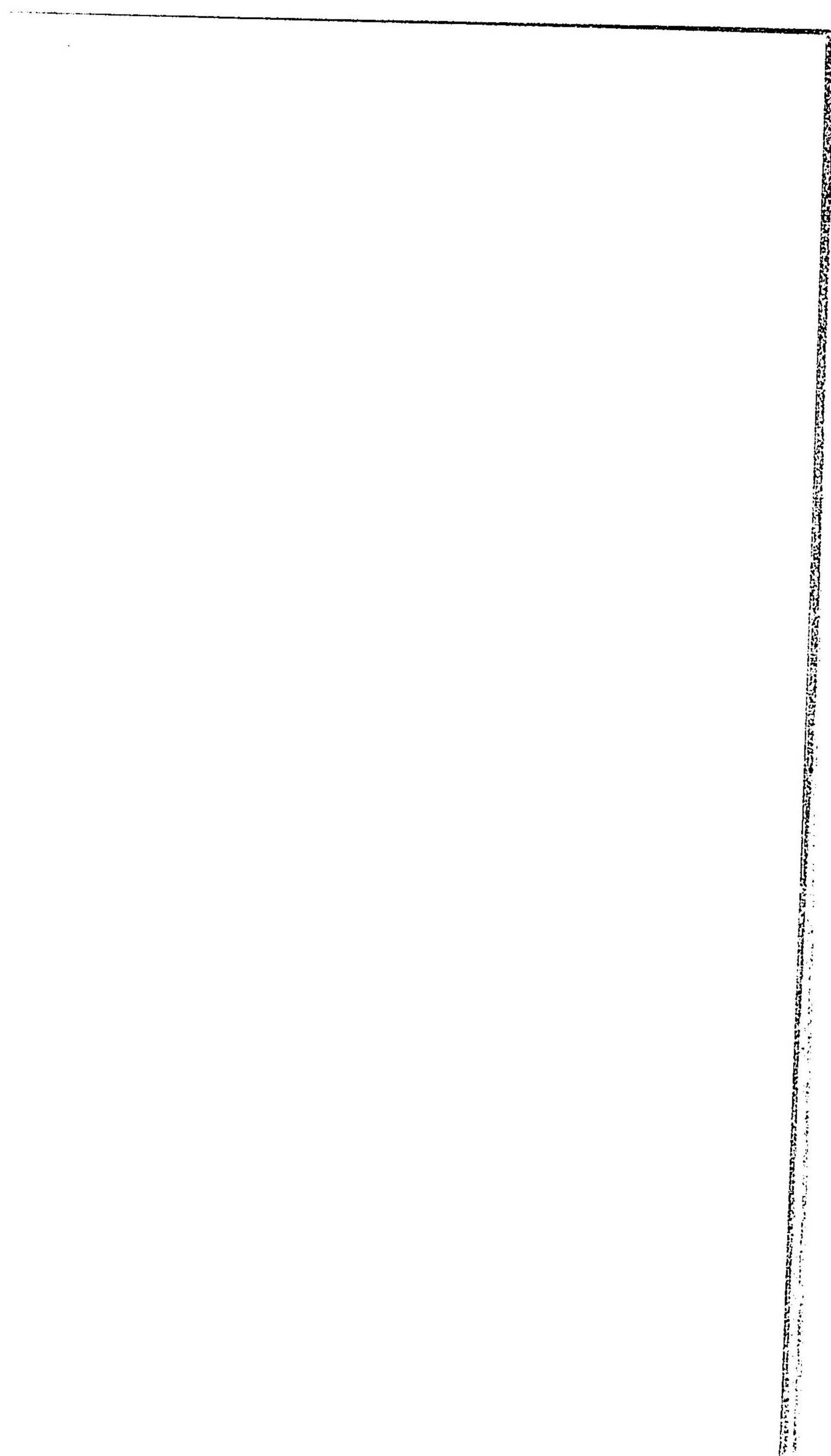
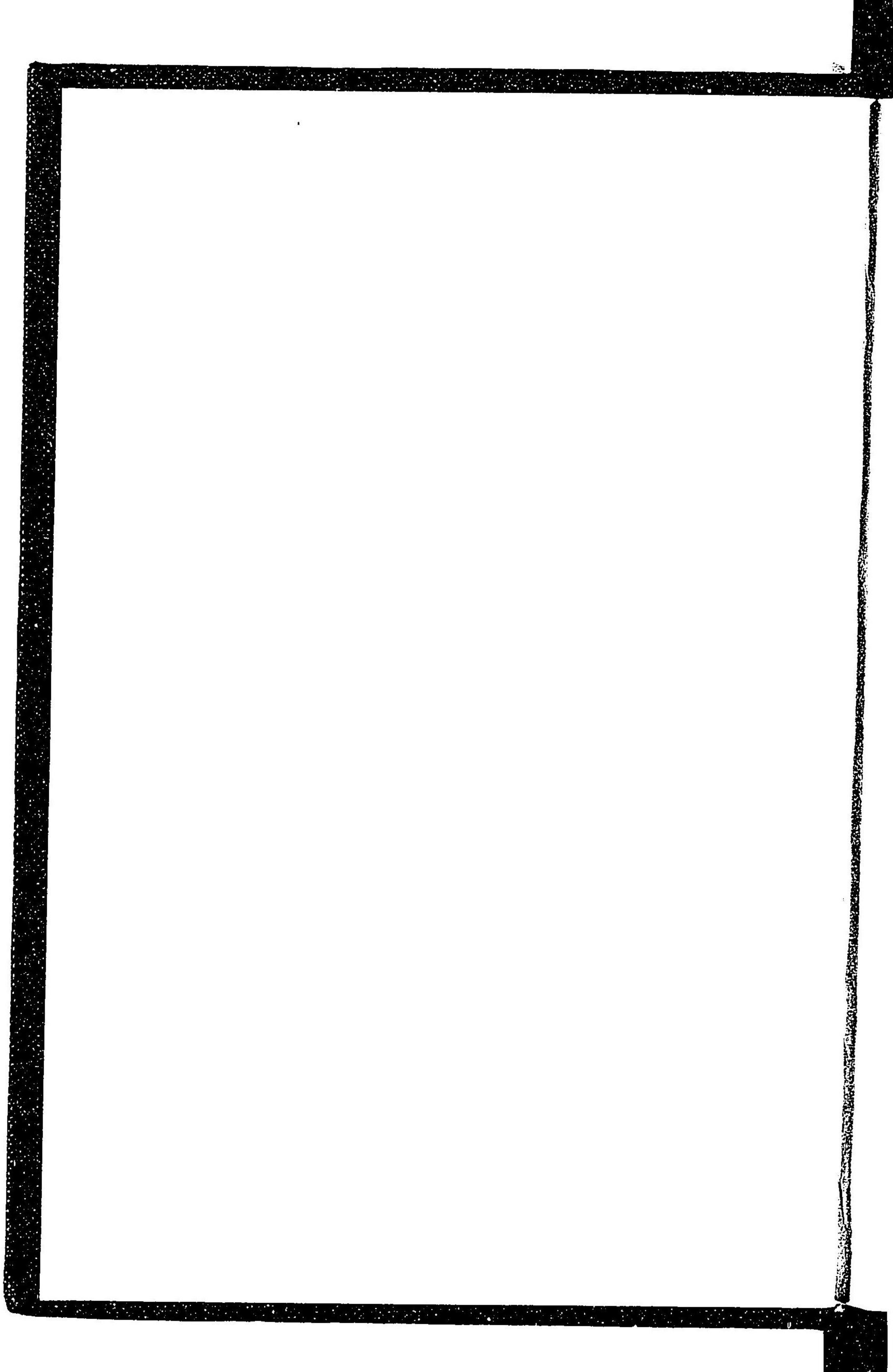
- VOL 1—Practical Occultism. Occultism vs. the Occult Arts. The Blessing of Publicity..... .35
- VOL 2—Hypnotism. Black Magic in Science. Signs of the Times... .35
- VOL 3—Psychic and Noetic Action..... .35
- VOL 4—Kosmic Mind. Dual Aspect of Wisdom35
- VOL 5—Esoteric Character of the Gospels..... .35
- VOL 6—Astral Bodies; Constitution of the Inner Man..... .35

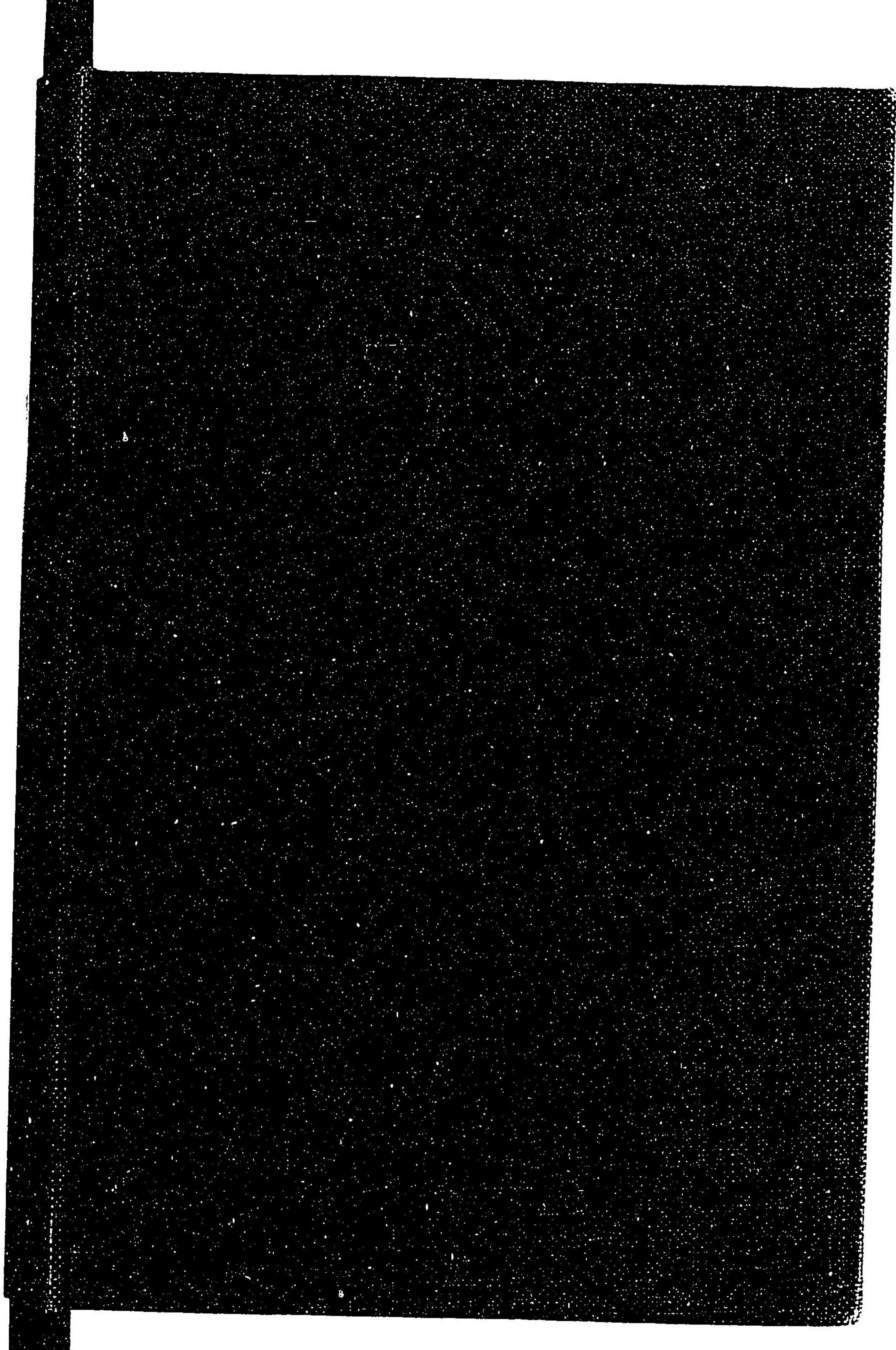
Theosophical Manuals, Elementary Handbooks for Students. Bound in cloth, price, each35

- No. 1. ELEMENTARY THEOSOPHY.
- No. 2. THE SEVEN PRINCIPLES OF MAN.
- No. 3. KARMA.
- No. 4. REINCARNATION.
- No. 5. MAN AFTER DEATH.
- No. 6. KAMALOKA AND DEVACHAN.
- No. 7. TEACHERS AND THEIR DISCIPLES.
- No. 8. THE DOCTRINE OF CYCLES.
- No. 9. PSYCHISM, GHOSTOLOGY, AND THE ASTRAL PLANE.

80 17







335

83

013788-000-1

335-83

靈智学解説

エッチ・ピー・ブラワッキー/著
イーエス・ステブンスン/訳
宇高 兵作/訳

M43

ABA-0278



